

## 鼎小字名の意味・由来

1. 小字名は『下伊那地名調査』（市村威人編 下伊那教育会所蔵 1958）による。
2. 呼び方は『明治初期長野縣町村字地名大鑑』（滝澤主税編著 長野県地名研究所 1987）を参考にした。

### 【愛敬坂・愛恭坂】

アイキョウザカ。

この小字グループは二ヶ所にあるが、いずれも松川に添う低地から上の段丘にのぼる傾斜地にある。

『鼎の地名』（鼎公民館歴史を学ぶ会。中井博会長）には「アイキョ坂」となっている。

アイキョウザカとは何を意味するのか。二ヶ所とも五輪原小字に近いがキョウを「経典」としてもはっきりとした繋がりが見えない。ここでは、四説を挙げる。

①アイ＝アヒで動詞アエから転じた語で「こぼれ落ちる」の意（岩波古語辞典）で「崩壊地形」をいい、キョウ←ケフ←ハ（陰）の転訛した語で「崩れ地」をいう（語源辞典）。同じ意味の語を重ねて意味を強めているのであろうか。以上から、アイキョウザカとは「崩崖のある坂道」をいうか。

②アイはアヒ（間）で、キョウは「崩れ地」（語源辞典）であるとすると、アイキョウザカとは「崩れ地の間の坂道」となる。

③アイ＝アヒ（相）で「あい対応すること」を意味し、キョウはオキ（興の字を当て音読したもの）のことで、「川に面する低い方」を意味していることも考えられる（語源辞典）。すなわち、アイキョウザカとは「川に沿う低地に向かう坂道」をいうのかもしれない。

④「アイキョ坂」だとすれば、「間渠坂」

の可能性も出て来る。つまり、アイキョウザカとは「二本の流水の間の坂道」になる。一ヶ所には、二本の井水が流れており、もう一ヶ所は松川と井水ということになるが、やや無理気味か。

全国地図にはアイキョウザカ地名もアイキョザカ地名も記載が無い。

### 【青木】

アオキ。

この小字は切石の段丘崖麓の低位段丘面 I にあり、国道 256 号線を跨ぐ大きな面積を有している。

アオキとは何か。瑞祥名であるが、語源辞典に依りながら三説を挙げたい。

①アヲ（青）はアワ（沫）に類縁の概念で「湿地」を意味する地名用語ではないかという。キはキ（処）で「場所」を示す。以上から、アオキは「湿地のあるところ」を意味するのであろうか。段丘麓でもあり、複数の井水も流れている。

②アオ←アフ（アブ）と転じた語でアバ（曝）と同様に「崩崖」をいう。すなわち、アオキとは「崩崖のあるところ」をいうか。上の段の中位段丘面との間の段丘崖は急傾斜地になっており、崩れ地があっても不思議ではない。

③アオキは字面の通りで、「青緑に樹木の繁った場所のあるところ」であることも考えられるが、どうであろうか。

全国地図には、アオキ地名は 79ヶ所に中・大字として記載があり、瑞祥名であるためか、数が多い。

### 【青木田】

アオキダ。

一色の中位段丘面にある。周辺にはヒエタ小字が分布しており、井水も南北両端を流れている。

アオキダとは何を意味するのか。アオキで述べたように、アオはアヲ＝アフ＝アワ（沫）で「湿地」をいい、キはキ（処）

で「場所」をいう。

従って、アオキダとは「湿地にある田んぼ」をいうものと思われる。

#### 【赤田】

アカダ。

この小字は、下山グループと名古屋グループの二ヶ所に分布している。

アカダとは何か。二説を挙げる。

①アカダとは文字通りで「赤土の土地(又は場所)」をいう。下山のアカダは現在も一部は水田になっているが、名古屋は現在でも畑である。しかし、この解釈は名古屋のアカダにふさわしいが、意味は「赤土の土地」となるのか。

②アカにはアカ(垢)で「湿地」の意味がある。つまり、アカダとは「湿地にある水田」を意味する。下山のアカダは、こちらの解釈が適切のように思える。下山では松川の堆積層の下に伊那層の赤褐色土壌があるという(鼎町誌)。

全国地図には、アカダ地名は、15ヶ所に中・大字として挙げられており、その全てに「赤田」の文字が宛てられている。

#### 【アクマタ】

一色の段丘面にある小さな小字で、周辺にカリマタ小字が三ヶ所もあるので、紛らわしい。現在は畑になっているが、近くには水田がある。

アクマタとは何をいうのであろうか。分かりにくい地名であるが、語源辞典によって二説を挙げる。

①アク・マ(間)・タ(処)で、アクはアクタ(芥)の略で「湿地」をいう。すなわち、アクマタとは、「湿気っぽい土地」をいうのであろうか。

②アクはアグ(上)の転じた語で、「高所」をいい、マ(間)は「場所」を示しタ(処)と意味が重なる。従って、アクマタとは「微高地になっているところ」をいうのかもしれない。

全国地図には、アクマタ地名は載っていない。

#### 【新城】

アラジョウ。

下伊那農業高校の段丘面にあり、その下の鼎中学校のある段丘に下る傾斜地まで含めた広い小字である。

アラジョウとは何か。二説を挙げたい。

①アラジョウとは「新しい城」であろう。東の端にはフルジョウ(古城)小字があり、松尾城に関わっている城跡と思われるが、この「古城」に対するアラジョウ(新城)を意味するのであろう。麓には「田中居屋敷」小字がある。タナカが固有名詞であれば「田中氏」の居城ということになりそうだ。町誌には松尾城を新しい城としているが、この点は解釈を異にする。

②アラはアラ(粗)で「崩崖」の意にあるという(語源辞典)。とすれば、アラジョウとは「崩崖もある城」となるが、どうであろうか。

全国地図にはアラジョウ地名は2ヶ所に、シンジョウ地名は53ヶ所に中・大字として記載されている。

#### 【荒田】

アラタ。

この小字は一色の国道153号線飯田バイパスのすぐ北側にある。

アラタとは何をいうのか。考えられることは二つ。

①アラタはアラタ(新田)で「新しく開墾した田」(広辞苑)か。この小字発生時に、まだ田んぼになっていない土地があったということは、水不足が原因だったのであろうか。

②アラタ=アラダ(荒田)で、「新開のため未だ熟田になっていないところ」(語源辞典)であるかもしれない。

他に、「荒れた田。久しく耕さない田」

という解釈もあり得るが、この場所でこうした田んぼがあったというのは考えにくいので採らない。

全国地図には、アラタ地名が41ヶ所、アラダ地名も3ヶ所が、中・大字として挙げられている。

#### 【有ヶ崎】

アリガサキ。

この小字も国道153号線飯田バイパス沿線で伊賀良堺にある。

アリガサキとは何をいうのであろうか。これも分かりにくい地名である。これも語源辞典に依りながら二説を挙げたい。

①アリは動詞アリ(有)の連用形が名詞化した語で、「目立つこと」の意であらうか。サキは「先端部」。以上からアリガサキとは、「微高地の先端部になっているところ」をいう。緩傾斜地になっているので、逆に微高地が目立つのかもしれない。すぐ東側には、タカミ小字群(高見、田上)がある。

②アリは副詞アリニ(斜)に通じ、「斜面」をいう。すなわち、アリガサキとは「傾斜地が突き出しているところ」をいうのかもしれない。

全国地図には、アリガサキ地名は、1ヶ所に中・大字として挙げられているだけである。宛てられている字は「蟻ヶ崎」。

#### 【蟻塚】

アリヅカ。

この小字は中平の低位段丘面にあり、現在は住宅地と畑になっている。

アリヅカとは何か。二説を挙げておきたい。

①アリヅカとは、字面通りに解釈すれば、「アリが地中に巣を作るために地表に持ち出した土砂でできた山」(広辞苑)である。日本で蟻塚をつくるのはアカヤマアリの仲間、エゾアカヤマアリは北海道から本州中部山地に棲息するという。山

本のアリヅカ小字はこの赤蟻であろう。この県の平地にエゾアカヤマアリがいたかどうかははっきりしないが、存在を否定することはできないような気がする。とすれば、アリヅカとは「かつてアリヅカがあったところ」を意味するか。

②アリ←ハリ(壜)と転じたもので、アリヅカとは「開壜で出てきた礫を積み上げたところ」を意味するのかもしれない。

全国地図には、アリヅカ地名は、1ヶ所に中・大字として挙げられており、「有塚」の字が当てられている。

#### 【家ノ前】

イエノマエ。

一色の中位段丘面に二ヶ所ある。

イエノマエとは「有力者の屋敷前方の土地」であるが、ここでの有力者はヤナギガイト(柳垣外)小字に居住していたものと思われる。

全国地図にはイエノマエ地名は9ヶ所が、中・大字として挙げられている。伊那谷南部には多い小字であるが、県は意外と少ない。

#### 【井口】

イグチ。

この小字の中に健和会病院がある。すぐ西側の法蔵寺下で、車川井と男女川井が合流している(町誌)。

イグチとは何か。二説を挙げる。

①イグチとは「中世の灌漑制で、河川などの用水路から田地へ引く、用水の取入れ口のこと」(国語大辞典)をいう。現在、この小字には、田んぼは一部にしか無いが、かつては多くの水田があったと思われる。

②イグチとはキ(井)・フチ(縁)の転訛した語で、「水路のほとり」の意もある(語源辞典)。現在も小字内を井水がながれている。この解釈も成り立ちそうだ。

全国地図にはイグチ地名が12ヶ所、

イクチ地名は1ヶ所に、中・大字として記載がある。

#### 【池田】

イケダ。

名古熊の中位段丘面に、この小字はある。ここにも、現在は井水が流れている。

イケダとは何か。二説を挙げる。

①イケダとは「わき出る泉の水で灌漑される田」(国語大辞典)であろうか。高知県の方言であるというやや遠い感じはするが、井水のないころには、自然の湧水を灌漑水に使っていた可能性は十分にある。

②イケダには「水路などのある所」をいうこともある(語源辞典)。自然湧水を集めた水路なのか、井水の水路なのかはわからない。

全国地図にはイケダ地名は多い。96ヶ所に中・大字として挙げられており、うち94ヶ所では「池田」の字が宛てられている。

#### 【池ノ川】

イケノカワ。

この小字は、一色の諏訪神社の段丘面に二ヶ所ある。

イケノカワとは「自然湧水が流れる川」としたい。

なお、この二ヶ所の小字のうち、一ヶ所の上流隣にはミズクチ(水口)小字があり、自然の湧水があることを示している。

全国地図には、イケノカワ地名は1ヶ所に、中・大字として挙げられているだけ。

#### 【井下】

イシタ。

名古熊の八幡神社の段丘面に二ヶ所ある。

イシタとは、字面の通りで「井水の下側の土地」をいうのであろう。井は大井か大井の分流をいう。

全国地図には、イシタ地名は二ヶ所にしかないが、宛てられている文字は「石田」となっている。

#### 【石田】

イシダ。

上山の低位段丘面にある小字。

イシダとは、これも字面通りで「小石の多い土地」あるいは「小石の多い田んぼ」を意味するものと思われる。

全国地図にはイシダ地名は多く、80ヶ所に中・大字として記載されており、うち79ヶ所で「石田」の字を宛てている。

#### 【伊豆名山・イツナ山】

イズナヤマ。

名古熊の駄科境にあり、毛賀沢へ下る急斜面と一部段丘上に、三ヶ所ある。

「松尾城の城内へ用水を引く時、手伝った人達が住んでいたという地域」(『鼎の地名』)であるという。

イズナヤマとは何を意味しているのか。語源辞典に依りながら三説を挙げる。

①イズはイズ(出)の意で「出っ張った所」をいい、ナは「土地」をいう古語ナで「場所」を示す接尾語。従って、イズナヤマとは「高く出っ張ったところのある山」であろうか。この小字群の中心付近には峰がある。

②イはイ(斎)で「神聖な」の意、ツナはタナ(棚)が転訛した語で「段丘」を意味するという。つまり、イズナヤマとは「段丘上にある神聖な山」であろうか。小字内には祠がある。

③先の『鼎の地名』に関わって、ナ(名)は特定の集団にも使うというので、「用水工事に関与したイズという名の集団が居住していたところ」という解釈もあり得ないわけではない。

全国地図にはイズナヤマ地名もイズナ地名も載っていない。

#### 【伊仙屋敷】

イセンヤシキ。

矢高諏訪神社の近くに一つあり、それより西の方にももう一つ小さなものがある。

イセンヤシキとは「イセンという有力者が住んでいたところ」となるが、このイセンは僧侶かもしれない。東隣には「寺下」小字がある。

全国地図にはイセン地名は1ヶ所にあるが、イセンヤシキ地名は無い。

#### 【一景地】

イッケイジ。

下山から中平にかけての低位段丘面にあり、大きな小字と小さい小字がある。

イッケイジは、寺院のようにも思えるが、その痕跡はないようだ。『県の地名』には「もとは一軒地と呼ばれた。始めの一軒から開発の始められた土地のことか」とある。

寺院説にまだこだわっている。

全国地図には、イッケイジ地名は挙げられていない。

#### 【一軒家】

イッケンヤ。

JRの切石駅の周辺に、三ヶ所ある。うち二ヶ所は松川沿いに位置している。

イッケンヤとは、「一軒だけ家があった所」をいう。この小字が発生したときの状況であろうか。

全国地図にはイッケンヤ地名は2ヶ所に中・大字として挙げられているが、宛てられている字はいずれも「一軒屋」となっている。

#### 【井場】

イバ。

近くを井水が流れる小さな小字である。

イバとは文字通り、「井水が流れているところ」をいう。

全国地図には、イバ地名は14ヶ所に中・大字として挙げられているが、「井場」の字を宛てているのは1ヶ所だけ。

#### 【岩塚】

イワツ(ツ)カ。

この小字は松川に近い低位段丘面の二ヶ所にある。

イワツカとは「石垣」のこと(広辞苑)。石垣が目立つ小字であったのだろうか。

全国地図には、イワツ(ツ)カ地名は、中・大字として5ヶ所が挙げられている。

#### 【岩山】

イワヤマ。

県の南端の山地に、この小字はある。

イワヤマとは、字面の通りで「岩の多い山」(広辞苑)をいうか。毛賀沢の溪谷の急傾斜地にある。

全国地図には、イワヤマ地名は19ヶ所に中・大字として記載があり、うち17ヶ所には「岩山」の字が宛てられている。

#### 【牛荒シ】

ウシアラシ。

この小字は、名古屋の段丘から毛賀沢に降りる急傾斜地にある。

ウシアラシとは何か。二説を挙げる。

①牛は馬に比べて坂道の荷物運搬に適しているといわれている。その「牛でも転びそうな急な傾斜地」をいうのであろうか。

②ウシーフチ(縁)が転じた語で、アラシは「山の急斜面」をいう(以上は語源辞典)。つまり、ウシアラシとは、「(段丘の)縁が急傾斜地になっているところ」をいうのかもしれない。

全国地図には、ウシアラシ地名は記載が無い。

#### 【氏神】

ウジガミ。

この小字は上山の中位段丘面に、三ヶ所ある。

氏神とは、一般には地域を守護する神である。ここ上山のウジガミ小字群は、明治29年(1896)に「氏子ハ一戸一社

ニ限ル」ことになったために、小規模を理由に他社へ合祀され抹消されてしまった氏神の一つであろうか。かつては、この地域の産土であり鎮守であったと思われるウジガミが遷座したか消滅したかして、小字にだけが残ったということであろうか。山神にもこうした例は多い。

全国地図には、ウジガミ地名は中・大字として1ヶ所にだけ記載がある。

#### 【牛草】

ウシクサ。下山の段丘から上の矢高の段丘に上る段丘崖とその麓に三ヶ所ある。

ウシクサという植物がある。イネ科の一年草で、関東以西の山野や田のあぜなどに自生している。さらにウシグサには、岡山・奈良の方言ではあるが、牛が好んで食うところからギシギシや植物一般を指す場合もあるという(以上は国語大辞典)。

以上から、ウシクサとは「ウシが好む植物の自生しているところ」としておきたい。

全国地図には、ウシクサ地名の記載は無い。

#### 【梅屋敷】

ウメヤシキ。

この小字は、上山の低位段丘面にある。

ウメヤシキとは何か。二説を挙げる。

①ウメヤシキとは文字通り、「梅が目立つ屋敷のあったところ」であろうか。

②ウメは動詞ウム(埋)の連用形が名詞化した語で、「埋まったところ」をいうのかもしれない。人工的な埋め立て地か、災害による堆積地がはっきりしないが、過去に松川の氾濫による被害があったのかどうか。

正徳五年(1715)の未満水について『下伊那史第八巻』は、「松川の氾濫については、円悟沢が山抜け、伊賀良の井口に大石が押し出し、山村須志角新田を流失させ、家屋十八軒を押し流した。上茶屋・下茶屋

にも七町八反八畝二十四歩を永流させた」と記している。

全国地図には、2ヶ所に中・大字として挙げられている。

#### 【瓜畑】

ウリハタ。

一色の中位段丘面にあり、国道153号線飯田バイパスが大井を越える付近にある小さな小字である。現在は住宅地になっている。

ウリハタとは何か。「瓜を栽培したことのある畑」では地名にはなりにくい。ウリ科の植物がなりやすいという厭地の問題もあるからである。ではウリハタは何を意味するのか。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①ウリーウルヒ(潤)と転じた語で、ウリハタとは「湿気っぽい畑」か。緩傾斜地になっており、大井が流れているためか。

②ウリーオリ(降。下)と転訛した語で、ハタはハタ(端)とする。すなわち、ウリハタとは「斜面を下る、その先端部の土地」をいうのだろうか。すぐ近くにサガリ小字があり、その先は傾斜地になっている。

全国地図には、ウリハタ地名は2ヶ所にあり、いずれも「瓜畑」の字が宛てられている。

#### 【榎本】

エノモト。

切石の低位段丘面にあり、県道青木・東鼎線を跨いで、二ヶ所にある。井水も屈曲しながら流れている。

エノモトとは何を意味するのか。三説を挙げておきたい。

①エはエ(江)で「小川。用水路」をいい、モトはモト(許)で「ほとり。きわ」の意(以上は語源辞典)。以上から、エノモトとは「井水のほとりにある土地」を

いうのかもしれない。

②モトは動詞モトル(悖)の語幹で「曲り」意から「(川などの)屈曲点」をいう(語源辞典)。従って、エノモトとは「井水の屈曲する付近の場所」ということにもなるか。

③榎木は街道の一里塚に植えられていたという。もしかしたら、この県道も旧街道で、榎木が植えられていた可能性がないわけではないが、証拠は無い。

全国地図には、エノモト地名は3ヶ所の中・大字として挙げられており、うち2ヶ所には、「榎本」の字が宛てられている。

#### 【大川端】

オオカワバタ。

この小字は、一色に2ヶ所、名古屋に3ヶ所ある。

オオカワバタとは何か。二説を挙げる。

①オオは美称であろうか、カワバタは「井水のほとり」をいう。オオカワバタとは「井水が流れている、その川端」を意味するのであろう。

②一色でオオカワと呼んでいた井水は名古屋井である可能性がある。とすれば、オオカワバタとは、「名古屋井の川端」をいうことになる。

全国地図には、オオカワバタ地名は、中・大字として5ヶ所に挙げられている。

#### 【大木本】

オオキモト。

中平の低位段丘面にあり、ビーラクスマツカワが近い。

オオキモトとは何をいうのであろうか。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①オオキモトはオオキ(大木)・モト(許)で、「有名な大樹があった付近」をいうのであろうか。

②オオキ←アウギ(扇)と転訛した語で、オオキモトとは、「井水に囲まれた土地が扇形になっているあたり」を意味するか。

モトには「所。あたり」の意がある。

全国地図には、オオキモト地名は載っていない。

#### 【大熊・大曲】

オオクマ。

これらの小字は名古屋の中位段丘面から毛賀沢へ降りる段丘の先端部にあり、二つの小字は並んでいる。毛賀沢の狭窄部に入る前の比較的氾濫原の広い谷になっている。

オオクマとは「川が曲流しているところ」であろうか。川は井水である羽場井なのか、それとも毛賀沢なのかははっきりしない。現在、羽場井はほぼ直角に曲がっているが、毛賀沢も小字名発生当時には、やや広い氾濫原を蛇行したことも考えられる。

全国地図には、オオクマ地名は、22ヶ所の中・大字として挙げられている。

#### 【大島】

オオシマ。

JR 飯田線を鼎駅の西の方で跨いでいる、小さな小字である。

オオシマのオオ(大)は美称か。シマは微高地をシマに見立てて名付けたものと思われる。現在は電車も通っており、平されており、島状の地形もはっきりしていないかもしれない。

全国地図には、オオシマ地名は147ヶ所の中・大字として挙げられている。うち142ヶ所に「大島」の字が宛てられている。

#### 【大塚・大塚下】

オオツカ・オオツカシタ。

名古屋の中位段丘面とその下段へ下る傾斜地に、これらの小字はある。下伊那農業高校の北側になる。

町誌には遠眺台として「近所の人は大塚ともいい、庚申塚ともいい、物見塚ともいっている。その名の示すように鼎町

に十四ある古墳の一つでもある。物見塚ともいうので、その昔松尾城に関係があって、飯田の坂西氏に対する監視所の役目をはたしていたのではなかろうかともいわれていた。」とある。

オオツカとは「大きな塚である古墳のあるところ」であろう。

オオツカシタとは、「オオツカのある所から下方の土地」をいう。

全国地図には110ヶ所ものオオツカ地名が中・大字として記載されている。

#### 【大坪】

オオツボ。

名古屋の中位段丘面の三ヶ所に分布している。大きいのが一つ、小さいのが二つあるが、小字発生時には繋がっていたものと思われる。

オオツボとは何か。分かりにくい地名である。二説を挙げる。

①ツボといえば、一般的には「つぼんだ地形」をいうのであろう。従って、オオツボは「少し広いが浅い窪地」をいうのであろうか。

②ツボには「田んぼの一区画」という（語源辞典）。あまりはっきりしない解釈ではあるが。とすれば、オオツボとは「大きな田んぼがあった所」となるであろうか。

それでも全国地図には62ヶ所にオオツボ地名が、中・大字として挙げられている、その全てに「大坪」の字が宛てられている。

#### 【ヲクテ・奥出】

オクデ。ヲクテもオクデとしたい。

切石の松川河川敷や氾濫原とそこから上る斜面にある。三ヶ所になる。

河川敷にある一ヶ所は、入野沢が合流する場所で、小字発生時には入野川が押し出す土砂で、耕地になっていた可能性がある。松川が改修されて流れが直線状

になったために堤外地になったものと思われる。

オクデとは、「最後まで残っていて、遅れて耕作地になったところ」としたい。それだけ耕作に不利な場所であったのであろうか。

全国地図には、オクデ地名は5ヶ所に中・大字として挙げられている。その宛てられている字は、すべて「奥出」になっている。

#### 【男女川端】

ナメガワバタか、はっきりしない。ナメガワバタとして進めたい。

この小字は、上山の低位段丘面にあり、県道青木・東鼎線を跨ぐ。この小字内を男女川井が流れている。

ナメカワバタとは何か。語源辞典によりながら二説を挙げておく。

①ナメはナメラカ（滑）の意で、「緩傾斜地」をいう。従って、ナメガワバタとは「緩傾斜地を流れる川のほとりの地」をいう。

②ナメは動詞ナム（並）の連用形が名詞化したもので、「二つのものが並んだ地形」をいう。すなわち、ナメガワバタとは「複数の井水が流れているところのほとり」であろうか。

全国地図には、ナメガワ地名が16ヶ所に中・大字として挙げられている。うち1ヶ所には「男女川」が宛てられている。

#### 【おち・ヲチ・尾知】

オチ。

これらの小字は、下伊那農業高校から松尾堺の間の五ヶ所に分布している。

オチとは何か。難しい地名であるが、敢えて二説を挙げておきたい。

①オチは「遠く隔たっている場所を示す」（国語大辞典）。名古屋八幡神社から離れていることをいうのであろうか。オチと



は「地域の守護神から離れた所」をいうのであろうか。隔靴搔痒の感じが残る。

②緩傾斜地になっているのではっきりしないが、オチはヲ（峰）・チ（接尾語）で「高い所」をいうか（語源辞典）。従って、杵とは「少し高くなっているところ」か。現在は五ヶ所とも畑と住宅地になっていて、田んぼは無い。ということは、少し高くなっているのではあろうか。これもあやふやな解釈か。

全国地図には、オチ地名は中・大字として10ヶ所に挙げられている。「尾知」の字が宛てられているのは1ヶ所だけ。

#### 【思川・思川口】

オモイカワ・オモイカワグチ。

これらの小字は西鼎の松川氾濫原と松川河川敷に、それぞれ二ヶ所ずつある。

オモイガワとは何か。井水の思井川井がこの小字の中を流れているが、井水名よりも小字名の方が先に成立していたとみる。語源辞典に依りながら二説を挙げたい。

①オモはオモ（面）で「（川などに）面した所」、イハヒ（樋）で「水路」で自然の河もいう。以上から、オモイカワとは「松川の川に面した井水の流れているところ」であらうか。

②オモイはオモ（重）・キ（井）で「流れの緩やかな川」をいうのであろうか。この川は井水か松川か迷うが、上流部に比べて流れがやや落ち着いた松川としておきたい。キとカハが重なるのが、やや気になる。

オモイカワグチは何か。これも二説を挙げたい。

①すぐ下流側に対岸から流れ出る谷川との合流点があるが、クチとはこのことをいうのであろうか。オモイカワグチとは「オモイカワ小字の近くで二本川の合流点がある所」か。

②クチ←フチ（縁）と転じたもので、「オモイカワ小字の近くで川縁になっている所」とも考えられる。

全国区地図には、オモイカワ地名は記載が無い。

#### 【垣外】

カイト。

この小字は、松尾堺にフルジョウ（古城）小字を挟んで二ヶ所にある。

カイトは松尾城の一画で「家臣の屋敷のあった所」であらうか。

全国地図には、中・大字としてカイト地名は8ヶ所にある。

#### 【柿木島】

カキノキジマ。

この小字は、野底川が松川に流れ込む合流点付近にある。松川の両岸に二ヶ所、松川右岸の松尾堺に一ヶ所ある。

シマは「周辺に水流のある場所」であらう。完全に水に取り囲まれていなくともシマ（島）といていたようだ。

カキノキはカキ（搔）・ヌキ（抜）が転訛した語か。カキは動詞カク（搔）の連用形が名詞化した語であらう。

以上から、カキノキジマとは、「引っ搔き抜き去った土石流によってできた島」か。正徳五年（1715）の未満水の後にできたといわれている（『鼎の地名』）。

松川右岸のカキノキジマ小字は対岸の野底川の土石流がぶつかる場所に位置している。三六災害時のカキノキジマ小字の被害は町誌にも記録されている。

全国地図には、なぜかカキノキジマ地名は記載が無い。

#### 【カケ田】

カケダ。

一色の中位段丘面にある。

カケダとは何か。仮説を二つ。

①カケは動詞カク（掛）の連用形が名詞化した語で、「水を引く」こと（広辞苑）。

この付近では田んぼへ水を引くことを「水を掛ける」という。以上から、カケダとは「井水から水を引いていた田んぼ」を意味するか。

②カケは動詞カク（欠）の連用形で、崩壊地をいう。カケダとは「崩れた土地（又は田）」か。毛賀沢川の氾濫によるものと思われるが、やや離れているのが気になる。

全国地図には、カケダ地名は、中・大字として4ヶ所に記載があるが、「掛田」の字を宛てているのが2ヶ所、「懸田」が1ヶ所となっている。

#### 【笠張】

カサハリ。

JR 飯田線と県道青木・東鼎線の間で、健和会病院の北東隣にある。

カサハリとは何か。二説を挙げる。

①カサハリとは、文字通りに解釈すれば「紙を張ってからかさを作る職人がいた場所」であろう。鼎で傘作りが盛んであったということは聞かないが、需要はあったはずだから、この解釈も成り立つ。

②カサハリ←カザハリ（風張）と清音化したもので、「風の強いところ」ということも可能である。南東から吹く巽の風の強いところだったかもしれない。すぐ北隣にはカジヤシキ小字があることも傍証になるか。

全国地図には、カサハリ地名は記載が無い。

#### 【カシダ】

中位段丘面の一色の伊賀良境にある小字。

カシダとは何を意味しているのか。二説を挙げる。

①カシダ←カジタ（鍛冶田）と転訛した語であろうか。とすれば、カシダとは「鍛冶職人が住んでいた所」あるいは「鍛冶職に与えられていた免田」を意味する。

南隣にはカジタ（鍛冶田）小字がある。

②カシは動詞カシグ（傾）の語幹で、カシダとは「緩い傾斜地の田んぼ」をいうのかもしれない。水田は傾斜角に敏感であるだろうから。

全国地図にはカシダ地名は2ヶ所に中・大字としてあるが、宛てられている字は2ヶ所とも「柏田」である。

#### 【鍛冶田】

カジタ。

一色のカシダ小字の南隣にある。

カシダ小字についての解釈と同じであるので省略する。

#### 【家治屋敷】

カジヤシキ。

上山の健和会病院の北側にある。カサハリ小字の北側でもある。

カジヤシキとは、「鍛冶職人の屋敷のある所」か。鍛冶に対する需要が多かったのは寺社で、釘が求められていたという。

全国地図には、カジヤシキ地名は19ヶ所に中・大字として挙げられている。

#### 【片羽】

カタハ。

この小字は、名古屋の松尾境に、三ヶ所ある。

カタハとは何を意味するのか。語源辞典によりつつ二説を挙げる。

①カタはカタ（肩）で、「丘の頂上からやや下の傾斜度の変わる部分」をいい、ハはハ（端）で「縁辺」の意。以上から、カタハとは「名古屋の東の縁辺にある、丘の頂上からやや下の段丘面」をいうか。

②カタは動詞カタグ（傾）の語幹で「傾斜を意味し、ハは単なる「場所」を示す。すなわち、カタハとは「緩やかな傾斜地になっている所」をいうのかもしれない。

全国地図には、カタハ地名は2ヶ所に中・大字として挙げられている。宛てられている字は、いずれも「片羽」である。

【上茶屋・下茶屋・下茶屋下】

カミチャヤ・シモチャヤ・シモチャヤシタ。

これらの小字は松川右岸の低位段丘面ないし氾濫原にある。

チャヤとは「路傍で湯茶などを供して休息させる店」をいう。飯田町から下って松川を渡る久米路橋や水ノ手橋を渡りきったその南北に広がっている。

カミチャヤとは、「松川の上流側で茶屋のある所」をいい、下茶屋は「松川の下流側で茶屋のある所」をいう。シモチャヤシタは「下茶屋より低い松川よりで茶屋のあるところ」をいうのであろう。

全国地図にはチャヤ地名は40件もあるが、カミチャヤ地名は1件、シモチャヤ地名は載っていない。

【雷田】

カミナリダ。

一色の中位段丘面の微高地にある。

カミナリダとは「落雷のあった場所」をいうのであろうか。ダはダ(処)とした。微高地の樹木に落ちたと思われる。

全国地図には、カミナリダ地名は1ヶ所にだけ、中・大字として挙げられている。

【上橋場・下橋場】

カミハシバ・シモハシバ。

これらの小字は、松川の両岸にあり、カミハシバ小字は新久米路橋の両岸に、シモハシバ小字はその下流で鼎橋の右岸にある。

ハシバとは「橋の架かっているところ」としたい。橋脚のあるところでもあるが、小字名発生時に橋脚があったかどうかわからない、ということもある。

カミハシバとは、「上流側で橋の架かっている場所付近」をいい、シモハシバは「下流側の橋の架かっている場所付近」をいう。

全国地図には、ハシバ地名は38ヶ所

に中・大字として挙げられているが、カミハシバ地名は載っていない。

【カミヤ】

上山の低位段丘面にある。

鼎は紙漉きの盛んなところであった。カミヤとは、その「紙漉きをしていたところ」で複数の紙屋があったものと思われる。同時に販売も行っていただのであろうか。

全国地図にも、カミヤ地名は43ヶ所も中・大字として記載がある。

【萱垣】

カヤガキ。

この小字は、上山の中位段丘から上る傾斜地にある広大な小字であり、その西端に萱垣山願王寺がある。かつて萱垣稲荷大明神を祀っていたところである。お稲荷様(仏教)と大明神(神道)をかねているお名前になっていたので、後に茶枳尼天と変えなければならなかった、という歴史がある。

この大きなカヤガキ小字の北側にも小さなカヤガキ小字があり、この方はウジガミ(氏神)小字やドウガイト(堂垣外)小字に囲まれている。

足利持氏の遺児永寿丸のために萱を集めて垣としたという伝説もある。(以上は町誌)

カヤガキとは何をいうのであろうか。

二説を挙げておきたい。

①カヤは動詞カヤス(返)の連用形の名詞化した語で「傾斜地」をいい、カキは動詞カク(欠)の連用形が名詞化した語で「崖」をいう(以上は語源辞典)。以上から、カヤガキとは、「崩れたことのある傾斜地」を意味するか。大きな方のカヤガキ小字の説明にはなる。

②カヤはカミ(神)・ヤ(屋)の約で、神殿を意味するか。カキは「垣根」であろう。従って、カヤガキとは「神殿の垣根

があったところ」をいうのかもしれない。この解釈は、小さい方のカヤガキ小字に当てはまりそうだ。

全国地図には、カヤガキ地名は記載されていない。

#### 【カリマタ】

一色の中位段丘面に、三ヶ所ある。

カリマタとは何か。難しい地名である。駄科にもあった小字名でもある。

カリマタとはカリマタ（狩股・雁股）で、「先が又（また）の形に開き、その内側に刃のある鍬（やじり）」（広辞苑）であるという。道路の三叉路をカリマタに見立てたのではないか、というのが駄科のカリマタの解釈であった。

この一色のカリマタについても、この解釈にせざるをえない。他の解釈は思いつかない。なお、日葡辞書にも「Carimata(カリマタ)」とある。

全国地図には、カリマタ地名が、12ヶ所に中・大字として挙げられている。

#### 【川ハタ・川端】

カワバタ。

これらの小字は一色と上山の段丘面にある。

カワバタとは、文字通りで「井水のほとり」をいう。

上山の井水は萱垣井で、一色の井水は名古屋井であろうと思われる。

全国地図には、カワバタ地名は69ヶ所、カワハタ地名は10ヶ所挙げられている。いずれも中・大字である。双方合わせてであるが、うち「川端」の字が宛てられているのは57ヶ所にもなる。

#### 【観音・観音前】

カンノン・カンノンマエ。

一色の観音であるから、カンノン小字とカンノンマエ小字は近くあってもいいと思われるのであるが、この場合はかなり離れている。カンノン小字は旧サティ

の敷地内にあり、その北東方向の段丘の突端にある。考えられることは①かつて、カンノン小字は広大な面積をもっていたのではないか、ということ。一色公民館の中にある本泉庵に観音様が祀られているというので（町誌）、国道153号線飯田バイパスの一色東交差点まで、カンノン小字に含まれていたことも考えられる。②『下伊那地名調査』か BlueMap のエラーによる。この①と②のどちらかであるが、①の可能性の方が高いとみる。

本泉庵は明治27年9月には鼎村大字稲井字観音にあったと記されている（町誌）。この「字観音」と「小字カンノン（観音）」とは同一なのか、それとも小字は字に内包されているのか。はっきりしない。

#### 【雉子洞】

キジボラ。

この小字は名古屋の段丘に三ヶ所ある。の毛賀沢川へ下る傾斜地や段丘の末端部に二ヶ所、段丘上の緩傾斜地の浅い凹地に一ヶ所ある。

キジボラとは、字面の通りで「キジが棲息していた洞」を意味するものと思われる。

全国地図には、キジボラ地名は、3ヶ所に中・大字として記載されている。

#### 【北垣外】

キタカイト。

この小字は、一色段丘の北の末端部にある。

キタカイトとは、「北の方にある有力者の屋敷があったところ」であろうか。一色の北の方という意味か、あるいはヤナギカイト（柳垣外）小字の北の方にあるという意味なのか。どちらともいえそうもない。

全国地図には、キタカイト地名は記録されていない。

#### 【北田】

キタダ。

この小字は一色の段丘の北端の段丘崖と国道153号線飯田バイパスの間のなかほどにある。

キタダとは何か。二説を挙げておく。

①キタダとは、文字通り「北の方にある田んぼ」か。北の方というのは、一色の北側をいうのであろうか。

②キタ←キダ（段）と清音化した語で、「段丘」をいうか。すなわち、キタダとは「段丘上にある田んぼ」となるがどうであらうか。井水が通る前には稲作の難しいところだったかもしれない。

全国地図には、キタダ地名は、中・大字として29ヶ所と、意外と多い数が挙げられている。

#### 【北平】

キタダイラ。近くにキタヒラ小字があるので、キタヒラの可能性もある。

名古屋の段丘東端の松尾境にある。

キタダイラとは「北の方にある、ほぼ平坦な緩傾斜地」をいうのであろう。方向の基準になっているのは、南の方にある寺社小字群であらう。清閑寺・八王神・地藏堂・天伯などの小字である。

全国地図には、キタダイラ地名は7ヶ所に中・大字として挙げられており、その全てに「北平」の字が宛てられている。

#### 【北ひら】

キタヒラ。

キタダイラ（北平）小字のすぐ近くにある。

キタヒラも、キタダイラと同じで「北の方にある、ほぼ平坦な緩傾斜地」をいうのであろう。

全国地図には、キタヒラ地名は、5ヶ所に中・大字として記載があり、うち4ヶ所に「北平」の字が宛てられている。

#### 【北原】

キタハラ。

この小字は、一色と名古屋に3ヶ所ずつあり、そのほかの地区にもある。

ハラは「平らで広く、多く草などが生えた土地。野原」（広辞苑）をいう。いずれも現在は住宅や果樹園になっている。

キタハラとは「それぞれの地区の北側にある野原」であらうか。平坦地だけでなく、傾斜地になっている所もある。

全国地図には、キタハラ地名は、中・大字として91ヶ所も記録されている。うち90ヶ所に「北原」の字が宛てられている。

#### 【北ホウゲ】

キタホウゲ。

一色の段丘の北端にある。願王寺の西隣になる。

ホウゲ←ホウケ（法花）←ハケ（羽毛）と転訛した語（語源辞典）で、「北海道・東北・関東から西の方にかけて、丘陵山地の片岸をいう地形名」（国語大辞典）であるという。

以上から、キタホウゲとは「（一色の）北側の丘陵の末端部」をいう。伊那谷南部には他にも数カ所、ホウゲ小字がある。

全国地図には、ホウゲ地名は1ヶ所だけ中・大字として挙げられ、「法花」の字が宛てられている。

#### 【行人塚】

ギョウニンヅカ。

この小字は名古屋の東部に二ヶ所ある。この行人塚にかかわる口碑が残る。勇二僧侶と尊い行人様で、いずれも死期が近づいたので塚の中に自ら入ったり埋めてもらったりして往生していった、という。村人達は祠や石碑を建てたりして祀ったという（名古屋区誌）。

行人塚とは行人と呼ばれる宗教者が生きたまま土中に入り念仏を唱えながら往生したといういわれを持つ塚。旅の六部や巡礼、聖、寺の僧などの場合もある。

その塚には病氣平癒や災害・飢饉防除など庶民の願いを成就する利益信仰が生じている場合が多い（民俗大辞典）。

全国地図にはギョウニンヅカ地名は中・大字として1ヶ所だけが記載されている。

#### 【切石】

キリイシ。

キリイシ小字は切石地区に六ヶ所ほどある。

切石とは何か。『県の地名』を引用しておきたい。

「はじめ“切り岸”で切りたった断崖が岸のように連なった所。後に、鋭い刃物で真二つに裁断したような石が見つかったことから伝説の義経主従が奥州へ落ちてゆく時、弁慶が大石を切って一行を通したとして“切石”と呼ばれるようになった」と。

改めてキリイシとは何か、考えてみたい。二説を挙げる。

①やはり、キリギシ→キリイシと転訛したとするのが、納得しやすいか。キリイシとは、「(松川に削られて)切り立ったような岩壁になっている所」であろうか。②地名発生時にも、副業として石を切り出すことがあったとすれば、「石を切り出していた所」ということになる。下伊那の方言で、花崗岩のことを切石ということがあったらしい（語源辞典）。このことは、石切だしの副業のあったことを暗示しているとも考えられる。

全国地図には、キリイシ地名は4ヶ所に中・大字として登録されている。うち3ヶ所で「切石」の字が使われている。

#### 【桐ノ木】

キリノキ。

この小字は、下伊那農業高校のあるところであり、すぐ北側は段丘崖になっている。

キリノキとは何を意味するのか。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①キリはキリ（断）で「断崖」をいい、ノキはヌキ（抜）が転訛した語で「崩崖」を意味する。以上から、キリノキとは「崩れた急傾斜地のある所」をいうか。

②ノキは伊那郡や水窪の方言だといわれているが、「家の裏手の土地」をいう。すなわち、キリノキとは「裏手が崩崖になっている所」をいうのかもしれない。

全国地図には、キリノキ地名は7ヶ所に中・大字として記載されている。その全てに「桐」の字が宛てられている。

#### 【櫛田】

クシタ。

一色の中位段丘面にある小さな小字である。

この付近には小さな短冊形の田んぼが並んでいる。

クシタとは、「櫛の歯に見立てた短冊形の水田」を意味しているものと思われる。

全国地図にはクシタ地名は無いが、クシダ地名は5ヶ所に中・大字として挙げられており、うち4ヶ所で「櫛田」の字が宛てられている。

#### 【久保】

クボ。

県には5ヶ所にクボ小字がある。

クボとは「凹地」を意味する。浅い凹地からやや深い凹地までである。

全国的にも多く、中・大字として全国地図に挙げられているクボ地名は265ヶ所にも及ぶ。

#### 【蔵西】

クラニシ。

下山の低位段丘面にある小字であり、飯田線を跨いでいる。

クラニシとは「倉庫の西側の土地」をいうのであろう。倉庫とは庄屋などで年貢米などを臨時に保管したり、飢饉備え

た備蓄穀物などを収蔵するための倉庫で、目立つ建物であったのだろう。

全国地図には、クラニシ地名は載っていない。

#### 【蔵骨】

クラボネ。

この小字は下茶屋と下山に五ヶ所ある。低位段丘面である。

鞍骨は「馬の背に身体を固定させる葬地。前輪（まえわ）と後輪（しずわ）と居木（いぎ）からなる」、すなわち鞍のことである。

クラボネとは何か。これは「鞍骨の形に似た地形のところ」であろう。他には考えようが無い。どこを鞍に見立てたのか、難しいところもあるが、前輪と居木と後輪を一つのセットとして見立てることもできそうだ。

全国地図にも、クラボネ地名は中・大字として3ヶ所に記載があり、いずれも「鞍骨」の字を宛てている。

#### 【車川端】

クルマカワバタ。

法蔵寺の北側にあつて飯田線に沿っている。かつて車川井が流れていたのであろうが、今は車川井と男女川井の間にある。車川井の川筋が付け替えられたのは飯田線によるものか。

クルマガワバタとは「車川井のほとり」をいう。クルマガワというのは、水車が並んでいた井水であつたからである。

飯田町で消費される米麦は、この鼎町の水車で搗かれたという。江戸時代には水車を所有するには藩主の許可が必要であつたという。最盛期には、この車川井だけでも50戸の水車業者があつたという。鼎町全体でも500戸足らずだったというのに。(以上は町誌)

全国地図には、クルマガワ地名は3ヶ所に中・大字として挙げられており、いず

れも「車川」の字が宛てられている。クルマガワバタ地名は記載が無い。

#### 【黒沢端・黒澤端】

クロサワバタ。

この小字は、切石・上山・下山の四ヶ所にある。

現在、黒川という井水は下流側の下山に残っている。黒沢という自然の川があつたのかどうか。黒川という川があつて、改修して伊賀屋井（施主の名前を付けたか）とした可能性はある。

クロサワとは何を意味しているのか。語源辞典などに依りながら三説を挙げたい。

①クロは「物のかたわら。そば」をいう。すなわち、クロサワとは「松川の傍を流れる谷川」を意味するか。伊賀屋井は松川の近くを流れている。

②クロはクラ（暗）に通じ「日蔭地」をいう。クロサワとは、「(上流部が) 山蔭の日蔭地を流れる谷川」か。

③『鼎の地名』にある解釈を挙げておく。「黒沢は腐植した落ち葉などで沢の水が黒色ににごって見えるといのであろう。黒土の地域」とある。

全国地図には、クロサワ地名は、82ヶ所にも中・大字として挙げられているが、クロサワバタ地名もクロサワハタ地名も載っていない。

#### 【毛賀沢】

ケガサワ。

名古屋の気賀沢川に左右兩岸に沿った広大な面積をもつ小字である。

ケガサワとは何か。ケガは動詞ケガル（穢）の語幹で「傷がつく」の意（語源辞典）。従って、ケガサワとは「崩崖の多い谷川」であろうか。

全国地図には、ケガサワ地名は記録が無い。

#### 【毛賀沢ビラ】

ケガサワビラ。

毛賀沢川左岸の急傾斜地にある。

ビラはビラ←ヒラと濁音化した語で、「傾斜地」をいう。黄泉比良坂のヒラである。

従って、ケガサワヒラとは、「毛賀沢川の峡谷の急傾斜地」をいうのであろう。

全国地図には、ケガサワビラ地名は載っていない。

#### 【源吾平】

ゲンゴヘイ、ゲンゴヒラかもしれない。

名古屋南端の松尾境に二ヶ所ある。

ヘイとは「ヒラに“平”の字を当て、音読した」（語源辞典）もので、「傾斜地」をいう。

ゲンゴは固有名詞であろう。従って、ゲンゴヘイとは「源吾という人に関わりのある急傾斜地」をいうのであろうか。

全国地図には、ゲンゴヘイ地名は無い。固有名詞の入った地名は、中・大字にはなりにくい。

#### 【荒神平】

コウジンダイラ、これもコウジンヒラである可能性がある。

この小字も名古屋東端の松尾境にある。

荒神は家や地域共同で祀られ、崇りやすい荒ぶる性格とともに祭祀者を庇護する強い力を持つ神。荒神森など森神の形態で祀られることが多い。祭場の毀損や祭祀の怠慢に対して行為者の疾病を引き起こし、激しく崇るとされるなど地主神的性格を持つ（民俗大辞典）、という。この神格は、まさに伊那谷南部に多い藪の神に酷似している。

この小字には平坦地がないので、コウジンヒラであるとすれば、コウジンヒラは「荒神様を祀っていた急傾斜地」ということになる。

コウジンダイラ地名は、全国地図には1ヶ所だけ中・大字として挙げられている。

宛てられている字は「荒神平」。

#### 【高野】

コウヤ。

下山の県道青木・東鼎線沿いにあり、島田井と思われる井水も流れている。

コウヤとは何か。語源辞典によりながら、二説を挙げておきたい。

①コウヤは「中世末～近世初めの開墾地名で、開墾をすすめるために租税が免除されていた土地」とのこと。その頃まで手つかずの土地であったのかどうか。であれば、コウヤとは「租税が免除されていたことのある開墾地」ということになる。

②コウヤはカハ（川）・ヤ（菴のヤ）で「流水のある湿地」をいうこともある。

全国地図には、コウヤ地名は114ヶ所に中・大字として記載があり、うち60ヶ所には「高野」の字が宛てられている。

#### 【越前】

コシマエ。

この小字は名古屋南西部の毛賀沢川溪谷の左岸急傾斜地に三ヶ所にあるが、一ヶ所は半分ほどが緩傾斜地になっている。

コシマエとは何を意味するのか。コシを動詞コス（越）の連用形が名詞化した語で「物の上を通過して向にやる。越えさせる」（国語大辞典）ことをいう。

従って、コシマエは「越えようとしている場所」をいうのであろう。越えようとしているのは、この場合は毛賀沢川であろう。名古屋の段丘とも取れるが、川の方が近い。

全国地図には、コシマエ地名は3ヶ所にあり、いずれも「越前」の字が宛てられている。

#### 【古城】

フルジョウ。

この小字は名古屋東端の松尾境にあり、松尾鈴岡公園に繋がっている。



フルジョウはアラジョウ（新城）に対する古城で、松尾城のことをいう。

#### 【古瀬】

コセ。

この小字は、下伊那農業高校の段丘から下る傾斜地の麓にある。

コセは、「長野県の一部で、一方が山になった道をいう」（国語大辞典）。従って、このコセも「一方が山側になっている道が通っているところ」をいう。

全国地図には、コセ地名が17ヶ所に中・大字として採りあげられている。うち「古瀬」の字が宛てられているのは4ヶ所。

#### 【小田】

コダ。

一色西端の伊賀良境にある小さな小字である。

コダとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①コダはコ（小）・ダ（処）で「小平地」を意味する。緩傾斜地の中の小平地である。

②こだ←ゴタと転じた語で、「どろ」の意から、「湿地」をいう。現在も井水が流れており、隣にはミズクチ小字もあるので、かつては湧水があったことも考えられる。

全国地図には、コダ地名は41ヶ所に中・大字として挙げられており、うち36ヶ所に「小田」の字が宛てられている。

#### 【五反田・六段畑】

ゴタンダ・ロクタンバタ。

ゴタンダ小字は上山に一ヶ所、ロクタンバタ小字は切石に二ヶ所ある。

いずれも土地の面積を表しているものと思われるが、それぞれの表示面積よりも実面積はかなり小さくなっている。

小字発生時には実面積も表示面積に近かったのではないだろうか。

全国地図には、ゴタンダ地名は65ヶ

所にも中・大字として挙げられており、うち64ヶ所は「五反田」の字を宛てている。

#### 【御殿】

ゴテン。

この小字は名古熊段丘の東部末端部の松尾境に二ヶ所ある。

ゴテンとは何を意味しているのか。語源辞典に依りながら二説を挙げたい。

①ゴテンとは文字通り、「貴人の屋敷のあった所」か。可能性は少ないかもしれない。

②ゴテンとはゴテン（御天）で「台地」をいう。この方が分かりやすいか。

全国地図には、ゴテン地名は7ヶ所にあり、うち6ヶ所は「御殿」の字になっている。

#### 【米カミ】

コメカミ。

矢高原の段丘とそこから下る傾斜地にかかる小字である。

コメカミとは何をいうのか。分かりにくい地名であるが、三説を挙げる。

①カミは動詞カム（醸）の連用形が名詞化した語で、「（上代、生米を嚙んで吐き出し、それを瓶にためて発酵させたところから）酒を造る。醸造する」（国語大辞典）ことをいう。従って、コメカミとは「酒を造ったところ」をいうのかもしれない。段丘崖の麓は自然湧水が豊かであったと思われる。酒造には藩の許可がいるが、藩では米の豊凶に応じて米価の調整のために酒造量を制限していたという（下伊那史第八巻）。

②コメ←クミ（組）と転じた語で「入り組んだ地形」をいい、カミは動詞カムク（傾）の語幹で「傾斜地」を意味する（語源辞典）。以上から、コメカミとは「小さな谷が入り組んでいた傾斜地」をいうのかもしれない。

③コメカミ（米嚙）とは「年少の比丘尼」（国語大辞典）をいう。この地に居住していたのかどうか、少女比丘尼が関わっていた土地であることも否定はできない。

全国地図には、コメカミ地名は2ヶ所に中・大字として記載があるが、宛てられている字は「米上」「米神」。

#### 【古屋敷】

コヤシキ。フルヤシキかもしれない。

上山の低位段丘面にある小さな小字である。

コヤシキとは何か。二説を挙げておきたい。

①コヤシキとは「古い屋敷跡」で、かつて有力者の屋敷があったのであろう。

②コヤシキはコ（小）・ヤシキか。とすれば、「小さな屋敷のあったところ」になる。

全国地図には、コヤシキ地名は19ヶ所に中・大字として挙げられており、「古屋敷」に4ヶ所、「小屋敷」に15ヶ所が宛てられている。

#### 【五輪・五輪原】

ゴリン・ゴリンバラ。

切石のゴリンバラ（五輪原）小字は低位段丘面の切石児童館のある場所にある。

ゴリンバラとは何か。二説を挙げる。

①『鼎の地名』には「五輪や供養塔が建てられていた所。小笠原氏の長清寺の跡か」とある。ゴリンバラとは「五輪塔が建てられていた所」であらうか。

②ゴリン←ゴリ←コリ（凝）と転じた語で、「岩石の多く集まった所」をいう（語源辞典）。ろで、治水が進んでいなかった時代には、石がごろごろしていた場所であったかもしれない。

ゴリン小字は下山の二ヶ所にある。

ゴリン（五輪）も「寺跡の五輪塔や供養塔があった場所であらう」（『鼎の地名』）であらうか。

全国地図には、ゴリン地名は11ヶ所

に、ゴリンバラ地名は1ヶ所に中・大字として挙げられている。

#### 【堺垣外】

サカイガイト。

上山公民館のある小字で、JR 飯田線を一部跨いでいる。

サカイガイトとは、字面の通りで「村境にあった有力者の屋敷跡」であらうか。村境というのは、旧上山と旧中平の境界を指す。

全国地図にサカイガイト地名は無い。

#### 【坂下】

サカシタ。

名古屋の国道153号線飯田バイパスの上り口にある。

サカシタも字面の通りで、「傾斜地の麓のところ」を意味するのであろう。

全国地図には、サカシタ地名が83ヶ所も中・大字として記録されている。うち82ヶ所に「坂下」の字が宛てられている。ありふれた地名である。

#### 【下り・サカリ・サカリ】

サガリ。

「下り」小字は旧サティから下る緩傾斜地にあり、「サカリ」小字は旧アピタに下る坂道に、「サカリ」小字は旧アピタから下る斜面にある。

いずれも「緩傾斜地にある坂道」を意味するのであろう。

全国地図には、サガリ地名は8ヶ所に中・大字として挙げられているが、宛てられている字に「下り」は無い。

#### 【櫻瀬】

サクラセ。

切石の松川沿岸にある長い小字である。

サクラセとは何を意味するのか。語源辞典に依りながら二説をあげたい。

①サは語調を整える接頭語で、クラは「谷」の古語。従って、サクラセとは「谷間の速い流れ」をいうのであらうか。

②サクは動詞サクル（挾）の語幹で「えぐる」の意、ラは「場所」を示す接尾語。以上から、サクラセとは「岸がえぐられたようになっている川の速い流れのある所」か。

全国地図には、サクラセ地名は1ヶ所にだけ記載があり、「桜瀬」の字が宛てられている。

#### 【櫻坪】

サクラツボ。

県道青木・東鼎線の南側で健和会病院と鼎公民館の間にある。

サクラツボとは何か。これも語源辞典に依りながら二説を挙げたい。

①サクラはサ（接頭語）・クラ（割）で、ツボは「凹地」。以上から、サクラツボとは「少しえぐられたような浅い凹地」か。隣にヌマ（沼）小字があるので、かつての地形も同様であったのかもしれない。

②サクラツボとは字面の通りで、「桜の木があった浅い凹地」か。

全国地図には、サクラツボ地名は記録されていない。

#### 【サラミ】

一色の中位段丘面上の国道153号線飯田バイパスの北側にある。

サラミとは何か。二説を挙げる。

①サラはサラ（皿）で「皿状の土地」をいい、ミは接尾語で「辺」の転、漠然として「場所」を示す。（以上は語源辞典）以上から、サラミとは「皿状になっている場所」をいうのであろうか。

②サラはサラサラで瀬の音の擬音語か。サラミとは「(毛賀沢川の)サラサラという瀬音の聞こえる所」も考えられるか。サラミ小字は図にはないが、毛賀沢川に向かって延びている。

全国地図には、サラミ地名は記録されていない。

#### 【澤添・沢添】

サワゾエ。

これらの小字は、下茶屋周辺に二ヶ所ある。

サワゾエとは、文字通りで、「沢に添った土地」をいう。それぞれのサワゾエ小字には複数の井水が流れている。

全国地図には、サワゾエ地名は、記載が無い。

#### 【地藏堂】

ジゾウドウ。

上山と名古屋の二ヶ所にある。一つは上山の一色・名古屋境に、もう一つは名古屋の松尾境にある。

ジゾウドウとは、「地藏堂があつて地藏菩薩が祀られており、地藏講などが行われていた場所」をいう。

地獄の責苦を罪人に代わって受ける地藏の献身は、中世以降現世における身代わり地藏としてあらゆる階層の人々の渴望するところとなり、民衆の現世利益への期待は各地に地藏霊場を出現せしめ、地藏像の造立が相次いだという（民俗大辞典）。

全国地図には、ジゾウドウ地名は25ヶ所に中・大字として挙げられている。うち23ヶ所で「地藏堂」の字が宛てられているのは当然のことであろう。

#### 【地藏面】

ジゾウメン。

旧アピタのある小字である。

ジゾウメンとはジゾウメン（地藏免）で、「その地からあがる収穫物を地藏堂を維持し、祭事の費用に当てるために免租されている土地」をいうのであろう。

全国地図には、ジゾウメン地名は1ヶ所にだけ挙げられている。

#### 【辻・下辻】

ツジ・シタツジ。

これらの小字は、鼎中学校の西側にある。上山の中平境に近い。

ツジは「道路の交差点のあるところ」をいい、シタツジは「ツジの下の方になるが、道路の交差点のある所」であって、「ツジの下の方にある土地」をいうのではない。

辻には境界性と公共性という二つの特性がある。境界の場としての辻は他界への出入口として認識され、祖霊や妖怪との出会いの場となった。辻での市や芸能は境界・公共両方の性格が見られる。辻に祀られる神は、辻の霊的な性格を反映し、境界にあって外界からの厄災を防ぐ地藏・道祖神・オノ神などが多い(民俗大辞典)。

全国地図には、シタツジ地名は無いが、ツジ地名は123ヶ所にあり、うち121ヶ所に「辻」の字が宛てられている。

#### 【芝添】

シバゾエ。

中平の松川沿岸に添って二ヶ所にある。

シバゾエとは何か。難しい地名である。語源辞典に依って三説を挙げておきたい。

①シバは「雑木」のこと。氾濫原に雑木が生えて大きくなることも考えられる。

そこで、シバゾエとは、「川原の雑木林に添った土地」をいうのであろうか。

②シバ←シマ(島)と転じたか。すなわち、シバゾエとは「川の中洲にそった土地」をいうか。川の流れて沿って生まれた土地か。

③シバはシ(石)・バ(場)で、「石の多い土地」か。すんなりと理解できそうな解釈である。

全国地図には、シバゾエ地名は無い。

#### 【清水ヶ嶋・清水ヶ島・清水嶋】

シミダガシマ・シミダシマ。この呼び名は『鼎の地名』にしたがったが、シミズガシマであるかもしれない。

シミダガシマとは何をいうのであろうか。二説を挙げておきたい。

①『鼎の地名』には次のようにある。「島とは洪水後に残った沖積層砂地である。清水ヶ湧き出たのであろう」と。

②シミズガシマとは、「ある時期、自然湧水が多くて耕作地を囲むように流れたことがあった場所」であらうか。もともと松川添いの低位段丘面は湧水の多い所で酒造りはその水を利用していた。例えば地震の時に、湧水が多くなったことも考えられる。

全国地図には、シミダ地名もシミダガシマ地名も載っていない。

#### 【勝負田】

ショウブダ。

名古屋最南端の急傾斜地にある。

ショウブ=ショウズで「水の湧き出るところ」をいう(語源辞典)。ダはダ(処)。従って、ショウブダとは「泉の湧き出ている谷」をいうのであろう。

全国地図には、ショウブダ地名は6ヶ所に中・大字として挙げられている。

#### 【白髪】

シラガ。

上山の低位段丘面にある。

シラガとは何を意味するのであろうか。シラ・ガ(処)でシラはシラ(新羅)とする解釈も面白いが、やや遠い感じがするので、ここでは挙げないでおく。

シラガ←シラカと濁音化した語で、シラはシル(汁)に通じ「湿地」を意味するという(語源辞典)。従って、シラガとは「湿地があるところ」をいうのであろうか。

「南朝の忠臣、青江四郎左エ門保盛殿は、正平二十三年(1368)霜月八日山村字白髪に於いて戦死。行年六十四歳と伝えられる」(『鼎の地名』)という口碑もある。

全国地図にはシラガ地名が3ヶ所に中・大字として挙げられている。

### 【代田】

シロダ。

この小字の中に鼎中学校がある。

この小字には、むかし「代田備前守が居たといわれる地。天正八年（1580）法蔵寺の開山大栄和尚を助けて堂宇を建立したと伝えられる」（鼎の地名）という。シロダは固有名詞ということになる。辻褄は合っていると思われる。小字名が先にあったということもありうるが、これ以上、詮索しない。

### 【新宅】

シntax。

中平の松川川岸で微高地になっているところにある。

シntaxは、新築の住宅や分家ではないだろう。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①シン←シ←シモ（下）と転訛した語で、タクハタカ（高）と同義で「高所」をいう。川岸の微高地をいうのであろう。以上から、シntaxとは「下流側にできた微高地」をいうのであろうか。

②シンは「新開地」をいう。すなわち、シntaxとは「新開地になった微高地」かもしれない。松川の治水工事が行われて、はじめて耕地になったところなので、開墾が遅れていたのではあろうか。

全国地図には、シntax地名は4ヶ所に中・大字として挙げられている。3ヶ所に「新拓」、1ヶ所に「新宅」の字が宛てられている。

### 【神明】

シンメイ。

この小字は、名古屋の最東端部に三ヶ所ある。

シンメイとは、「神明社があったところ」と思われるが、その痕跡はない。ただ小字に残っているだけであろうか。

神明信仰は伊勢神宮と信者を仲介した

のは御師で、彼らによって伊勢信仰は広められた。民衆が神宮に望んだのは農作の願いだけでなく、至福・長命・武運など多方面に及んだ。こうした民衆の生な願望は内宮・外宮に直接むけられより別宮などを対象とした。地方に勧請された神明関係社は明治になって、末社として排除され、御師も明治四年に廃止された。

（以上は民俗大辞典）

こうして地方の神明社は淘汰されていた。こうした歴史がシンメイにはある。

全国地図には、シンメイ地名は中・大字として36ヶ所に残されていて、うち「神明」の字が宛てられているのは32ヶ所になる。

### 【西瓜畑】

スイカバタ。

一色の緩傾斜地にあり、ウリハタ（瓜畑）小字と並んでいる小さな小字である。

スイカバタとは、字面の通りで「西瓜を栽培したことのある畑」であろうか。

小字発生時に西瓜があったのかどうか、気になったが、西瓜が日本に渡来したのが天正七年（1579）だというので、江戸期には鼎にも入っていたのであろう。太田文碩の『各々御用慎』（1844）には、味のよいものとして「駄科の西瓜」が挙げられているので、鼎でも江戸期には西瓜が栽培されていたと思われる（下伊那史第八巻）。

全国地図には、スイカバタ地名は記載されていない。

### 【水神】

スイジン。

この小字は、下茶屋の松川縁で、下茶屋公民館はこの小字の中にある。

スイジンとは「水神が祀られていたところ」をいうのであろう。現在、水天宮・水神宮の石碑があるが、明治二十二年に造立されたもの。

水神は水にかかわる多種多様な神の総称。水稻栽培にかかわって田の神と同一視されるほか、山中の水源地に水分神としてまつられる場合には山の神と同一視される。また、飲料水・生活用水を供給する井戸や泉、川などにも水神がまつられることがある。(民俗大辞典)

ここ下茶屋の水神は水害を防ぐ神として祀られたのであろう。

全国地図には、スイジン地名は7ヶ所の中・大字として記載があり、その全てに「水神」の字が宛てられている。

#### 【須志角】

スシカド。

切石にこの小字は四ヶ所ある。

スシカドとは何を意味するのか。二説を挙げたい。

①スシ←スジと転じた語で、動詞スジル(捩)の語幹から「曲がりくねった様子」をいい、カドはカハ(川)・ド(処)で「川のある所」をいう(以上は語源辞典)。従って、スシカドとは「曲がった川のほとり」をいうのであろうか。川は松川と伊賀良井などの井水を指す。

②スシ←スヂと清音化したもので、スヂはス(砂)・ヂ(地)で「砂地」をいうか。すなわち、スシカドとは「砂地になっている川のほとり」かもしれない。

全国地図にはスシカド地名は記載されていない。

#### 【砂田・砂畑】

スナダ・スナバタ。

一色と名古熊に四ヶ所、この小字がある。

スナダとは、字面の通りで「砂地の田んぼ」をいうのであろう。あるいは「砂地になっている所」の可能性もある。

全国地図には、スナダ地名は16ヶ所の中・大字として挙げられており、その全てに「砂田」の字が宛てられ

ている。

#### 【角】

スミ。

この小字は中央道の松川橋の南にある。スミとは何か。語源辞典似寄りながら二説を挙げる。

①スミはスミ(隅)で「平地の隅」をいう。段差の小さな傾斜地の麓の部分进行うのであろうか。

②スミはス(砂)・ミ(「場所」をいう接尾語)で、「砂地のところ」をいうのかもしれない。

全国地図には、スミ地名は11ヶ所の中・大字として挙げられており、うち5ヶ所で「角」の字が宛てられている。

#### 【角田】

スミタ。

一色の伊賀良境にある小さな小字で、二ヶ所にある。

スミタとは何を意味するのか。これも語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①スミタはスミ(隅)・タ(処)か。すなわち、スミタとは「平地の隅のような所」か。小字発生時には高低差のある所だったのであろうか。

②スミタはス(砂)・ミ(接尾語)・タ(処)で、「砂地になっている所」をいうのかもしれない。

全国地図にはスミタ地名は記載が無い。

#### 【清閑寺】

セイカンジ。

名古熊の東部にあり、松尾境に近いところにある。

セイカンジとは「セイカンジという寺院のあった所」をいうのであろう。

「小笠原時代のころ寺のあった場所らしい。近くから鱧口が出土している」(鼎の地名)とある。

全国地図にはセイカンジ地名は1ヶ所だけだが記載があり、「清閑寺」の字を宛

てている。

#### 【泰座・田井座】

タイザ。

これらの小字は、一色・下山・名古屋の七ヶ所にある。いずれも少し離れてはいるが、近くに寺社か寺社にかかわると思われる小字がある。名古屋の「泰座」小字は近くに諏訪神社があり、一色の「田井座」小字は近くに「観音前」小字が、下山の「泰座」小字には「五輪」小字が、名古屋の「田井座」小字には「神明」小字がある。

タイザのタイ（対）は、本来は寝殿造りの対屋(たいのや)のことであったが、後に「別棟の離れ屋」を指すようになった（国語大辞典）。

ザ（座）は「田楽・猿楽その他の芸能で、演者・囃子方などによって作られた集団」をいう（広辞苑）。

以上から、タイザとは、「田楽・猿楽の芸能集団が練習をしたり寝泊まりする、寺社とは別棟の離れ屋があったところで、耕作するための田畑もあり、免租されていた」と考えたい。

タイザは伊那谷南部特有の小字名で、全国的には2ヶ所にタイザ地名が挙げられているが、宛てられている字は「間人」で、聖徳太子の母である間人皇女の関わる言い伝えの残るところにある。

#### 【鷹ノ羽・タカノハ】

上茶屋の県道青木・東鼎線と黒沢井に添って三つのタカノハ小字が並んでいる。

タカノハとは何か。難しい地名である。二説を挙げる。

①『鼎の地名』には、「松尾城の小笠原氏がこの辺まで鷹狩りに来たのであろう」とある。タカノハをタカ（鷹）・ノ（助詞）・ハ（場）としたのであろうか。

②タカノハはタカ（高）・ノ（助詞）・ハ（端）で、「西の方から下がってきている

緩傾斜地の末端部」を意味するか。

全国地図には、タカノハ地名は1ヶ所の中・大字として挙げられている。

#### 【高見・田上】

タカミ。

一色の伊賀良との境に近いところに、これらの小字は四ヶ所にあるが、ほぼ一ヶ所にかたまっている。

タカミとは、「少し高くなっていて、物見をした所」をいうのであろうか。ここから、物見をすれば毛賀沢川越えの伊賀良方面になるが、駄科の鈴岡勢か吉岡の下条勢を警戒していたのであろうか。

全国地図にはタカミ地名は、20ヶ所の中・大字として挙げられており、宛てられている字は、全て「高見」となっている。

#### 【滝下】

タキシタ。

この小字は、名古屋の段丘から毛賀沢川へ降りる急傾斜地にある。

タキシタとは、「急流を流れ下る谷川の下の方」をいうのであろうか。常時流水のあるところには見えないが、雨の時など、ここで滝行をすることもあったのかもしれない。

全国地図には、タキシタ地名は2ヶ所にある。宛てられている文字は「滝下」。

#### 【瀧場】

タキバ。

東鼎の東端部に大小のタキバ小字が四ヶ所ある。

タキバとは「御嶽行者が滝行を行ったところ」をいう。島田井と思井川井の二本の流水しか考えられないが、この井水で荒行をしたものと思われる。

名古屋神社のお瀧場では名古屋井を使っていたという。滝行をする名古屋の御嶽行者は最盛期には50余名もいたとい

う（名古屋区誌）。

全国地図にはタキバ地名は、1ヶ所にしかなく、宛てられている字も「滝馬」であるという。

#### 【竹ヶ花・竹ノ花】

タケガハナ・タケノハナ。

タケガハナ小字は、一色に二ヶ所ある。一つは不動堂の先端部に、もう一つは一色の公会堂のバイパスを挟んだ北側にある。タケノハナ小字は名古屋の中位段丘面に三ヶ所あり、いずれも段丘南西端の気賀沢川へ下る突端部になっている。

タケガ（ノ）ハナとは何か。タケータカ（高）が転訛した語で、ハナはハナ（鼻）から「先端部」をいうのであろう。以上から、タケガハナとは「微高地を含む傾斜地の先端部」をいうのであろう。バイパス北側のタケガハナ小字は先端部から逆に辿ると、もう少し高いヤナギガイト小字になる。ここには有力者の屋敷があったと思われる。不動堂のタケガハナ小字は、不動堂の傾斜地の先端部になる。

全国地図には、タケガハナ地名は10ヶ所に、タケノハナ地名は28ヶ所に、中・大字として記載がある。

#### 【竹越・竹コシ】

タケコシ。

「竹越」小字は下山の健和会病の県道と飯田線を越えた北側の緩傾斜地にあり、「竹コシ」小字は旧サティの敷地の緩傾斜地にある。

タケコシとは何を意味するのか。タケコシはタケ（高）・コシ（腰）で、「(高いところを肩だとすると)腰の部分の高さ」であろうか。

全国地図には、タケコシ地名は記載が無い。

#### 【竹下】

タケシタ。

名古屋の松尾境の傾斜地に2ヶ所ある。

タケは「高所」をいう（語源辞典）。タケシタとは「台地から下る傾斜地」をいうか。

全国地図には、タケシタ地名は9ヶ所に中・大字として挙げられており、うち8ヶ所では「竹下」の字が宛てられている。

#### 【竹ノ内】

タケノウチ。

この小字は、一色の中位段丘面にあり、タカミ小字群（田上・高見）に囲まれている。

タケは微高地をいうか。タケノウチとは「微高地の中の土地」となるが、どうであろうか。

全国地図には、タケノウチ地名は中・大字として105ヶ所に挙げられている。

#### 【駄科原】

ダシナハラ。

この小字は上茶屋の低位段丘面にある。ダシナハラとは何か。ダータ（処）で「耕作地」をいい、シナハシナ（階）で「段丘」のこと、ハラは「場所」か（以上は語源辞典）。従って、ダシナハラとは「段丘状の耕作地になっている場所」であろうか。

全国地図にダシナハラ小字は無い。

#### 【田中】

タナカ。

この小字は、上山・下山・名古屋に五ヶ所ある。

タナカとは何か。語源辞典に依りながら考えていきたい。

名古屋にある小さなタナカ小字については、タナカとはタナ（棚）・カ（処）で「棚状の土地」を意味すると思われる。緩傾斜地になっているが、小さな丘がある。

その他の広いタナカ小字では、タナカとは「田んぼに囲まれたところ」を意味するのであろう。



タナカ地名は全国的にも多く、339ヶ所で、中・大字として記載がある。

#### 【田中居屋敷】

タナカイヤシキ。

この小字はアラジョウ（新城）小字の北隣にある。段丘崖の麓になる。

居屋敷とは「主人の常に居住する邸宅」（国語大辞典）をいう。タナカは固有名詞であろう。以上から、タナカイヤシキとは「田中殿が居住していた所」となる。南隣のアラジョウ（新城）に関わる人物であろう。

全国地図にはタナカイヤシキという長い名前の地名は無い。

#### 【タナダ・棚田】

タナダ。

上山と一色にある。

上山のタナダは「棚状の土地」をいうのであろう。緩傾斜地と急傾斜地からなっていて、緩傾斜地は現在果樹園に、急傾斜地は墓地と針葉樹林になっている。

一色のタナダは「棚状になっている田んぼ」であろうか。緩傾斜地にある。

全国地図には、タナダ地名は11ヶ所に中・大字として挙げられており、その全てに「棚田」の字が宛てられている。

#### 【谷川】

タニガワ。

西鼎の松川左岸にあり、谷川が松川に合流している。

タニガワは「谷間を流れる川」をいう（広辞苑）。飯田の丘の上の谷間を流れてきている川をいうのであろう。あるいは、もっと上流の虚空蔵山中を流れる部分から名付けられたものであろうか。

全国地図には、タニガワ地名が40ヶ所にあり、うち39ヶ所に「谷川」の字が宛てられている。

#### 【千萱田】

チガヤダ。

この小字は、一色の中位段丘面にある。

チガヤダとは何をいうのだろうか。二説を挙げる。

①チガヤダとは、字面の通りで「チガヤが自生していた原野を水田化したところ」であろうか。チガヤはイネ科の多年草で茎葉は屋根を葺くのに用い、幼穂を子どもの頃は食べたことがある。

②チガヤダは、チガ（違）・ヤ（菴）・ダ（田）で、「高さの違った田んぼ」（語源辞典）をいうか。棚田を別の語で表したのであろうか。

全国地図にはチガヤダ地名は無い。

#### 【茶座】

チャザ。

下山の低位段丘面にあり、まわりにはタイザ小字やゴリン小字がある。

チャザ（茶座）とは「茶を取引する商人の同業組合のあった場所」であろうか。実態はよくわからないが、茶座銭の説明に「中世、近世、茶を取引する商人の座に、茶の取引を独占する特権を与えた代わりに、代償として納入させた金銭」（国語大辞典）とある。鼎の茶座も免租されていたのかもしれない。

全国地図にはチャザ地名は記載が無い。

#### 【茶ノ木畑】

チャノキバタ。

この小字は名古屋の中位段丘面の南西隅の西向き傾斜地にある。

チャノキバタとは、文字通り「茶を栽培していた畑」であろう。茶座や茶屋のあり鼎だから、茶畑があっても不思議ではない。チャノキバタ小字の斜面は褶曲しているので、南向きになる斜面も二ヶ所にあり、そうした場所で茶が栽培されていたのであろうか。

全国地図には、チャノキバタ地名は無いが、チャノキ地名は6ヶ所に中・大字として挙げられている。

### 【塚田】

ツカダ。

この小字は中位段丘面の下の段丘へ降りる先端部にあり、一色の願王寺の北西側にあたる。

ツカダは、「古墳があった所」か、耕作するために、「耕地から拾い出した石を積み上げた所」のどちらかであろう。

全国地図にはツカダ地名は22ヶ所に挙げられており、うち21ヶ所に「塚田」の字が宛てられている。

### 【辻垣外】

ツジガイト。

この小字は、名古屋の中位段丘面の東部に位置する。松尾境に近い。

ツジガイトとは「近くに辻のある有力者の屋敷跡」であろうか。現在は三叉路があるだけであるが、地名発生時には、四つ辻があったと思われる。

辻については、既に触れているので、繰り返さない。

### 【寺下】

テラシタ。

この小字は、上山の低位段丘面にある。北西側の高い方には法蔵寺がある。

テラシタとは「寺の下の方にある土地」をいうが、ここでいう寺は法蔵寺であることはいうまでもない。

全国地図には、テラシタ地名は26ヶ所に中・大字として挙げられており、うち25ヶ所には「寺下」の字が宛てられている。

### 【寺ノ坂・寺ノ前】

テラノサカ・テラノマエ。

名古屋の中位段丘面東部の松尾境の近くにある。

テラノサカとは①「寺へのぼる勾配のある道」をいうのか、あるいは②「寺との境界になっている土地」をいうのか。

テラノマエとは「お寺の前の土地」を

いうのであろう。

この名古屋のテラは何をさすのか。二つの小字の北隣にあるのはヤクシドウ（薬師堂）小字である。この薬師堂にあった寺院のことを指しているのか。それとも、少し西方に離れているがセイカンジ（清閑寺）小字と関連する寺院のことなのか。決められないでいる。

### 【天伯】

テンパク。

鼎には、名古屋の段丘東部と切石に3ヶ所のテンパク小字がある。

天伯は信州を分布の中心とし、東北・関東から東海・伊勢志摩にかけて広く見られる神名。天伯には星神・天狗・山の神・猿田彦・十二山の神・金神・崇り神・漂着神・水神・御霊神・雷神・稻荷・地主神・地の神・屋敷神的な性格で、災害除け、雨乞い、厄除け、平癒祈願、安産祈願、子育て祈願などの信仰がある（民俗大辞典）。

テンパクとは「天伯神を祀ってあった所」をいう。

鼎の天伯神はそれぞれの祀られている場所からみて、切石のテンパクは水神的な神格をもち、名古屋のテンパクは風神の性格を持つことが考えられる。

全国地図には、テンパク地名は4ヶ所に中・大字として挙げられており、いずれも「天伯」の字が宛てられている。

### 【樋ノ沢】

ヒノサワ。

切石の松川氾濫原にある。

ヒノサワのヒ（樋）は「せき止めた水の出口の戸。これを開閉して水を出したり留めたりする。水門」（広辞苑）である。

従って、ヒノサワとは「水門のある谷川が流れている所」か。谷川とは、もちろん松川を指す。

全国地図には、ヒノサワ地名は13ヶ

所に中・大字として記録されている。

【堂垣外】

ドウガイト。

この小字は上山と下茶屋の低位段丘面に三ヶ所ある。

ドウ（堂）は「神仏をまつた建物」（国語大辞典）をいう。従って、ドウガイトとは「神仏を祀った御堂のあったところ」をいうのであろう。

この御堂とは、近くのウジガミ小字が関わる御堂なのか、それとも願王寺関係の御堂があった所なのか、はっきりはしない。

全国地図にはドウガイト地名は、二ヶ所にしかない。

【トウシ・トウジ・トラジ】

トウジ。

上山とシモヤマの低位段丘面に、これらの小字は、ほぼ南北に並んでいる。

トウジとは何をいうのか。二説を挙げたい。

①トウジはトウジ（杜氏）で「酒造家で酒を醸造する長（おさ）。また、酒つくりの職人」（広辞苑）をいう。ここでは「酒造りの職人が住んでいた所」をいうのであろうか。冬季の間みの住居だったと思われる。

②トウジートウ（倒）・ス（接尾語）と転じた語で、「傾斜地」をいう。トウは動詞タフス（倒）の語幹で、スは「場所」を示す（以上は語源辞典）。以上から、トウジは「傾斜地」をいうのかもしれない。

全国区地図にはトウジ地名は9ヶ所に中・大字として挙げられているが、「杜氏」の字を宛てているところはない。

【藤治垣外】

トウジガイト。

この小字は切石の低位段丘面にある。

トウジガイトとは何か。先のトウジについての解釈をそのまま当てはめて解釈

を二つ。

①「酒造りをしていて、杜氏もいる屋敷のあったところ」であろうか。

②「傾斜地で屋敷があったところ」かもしれない。

全国地図にはトウジガイト地名は無い。

【殿垣外】

トノガイト。

この小字は、名古屋の東部に二ヶ所あり、大きな面積を有している。

トノガイトとは「殿と呼ばれるような貴人がいた屋敷跡」か。

全国地図にはトノガイト地名は10ヶ所に中・大字として挙げられている。

【殿畑】

トノバタ。

この小字は一色不動堂の南側の微高地にある。

トノバタとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①トノバタを字面の通り解釈すれば、「貴人の所有する畑」になる。面積は大きくないが、小字発生時にはもっと広がったのかもしれない。

②トノータナ（棚）と転訛した語で、「段丘」を意味する。トノバタとは「少し高くなっている段丘にある畑」をいうのかもしれない。不動堂や願王寺からみれば、この小字は段丘上に位置する。

全国地図には、トノバタ地名は2ヶ所に中・大字として挙げられており、「殿畑」の字が宛てられている。

【中井】

ナカイ。

下山にある小字で、この中に鼎文化センターがある。中井という井水はあるが、この小字を流れてはいない。

では、ナカイとは何を意味しているのか。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①ナカイはナカ（中）・イ（居）で、「集

落の中心部」をいう。ここのナカイについても、ありうる解釈と思える。

②ナカイはナカ（中）・キ（井）で、「川に囲まれた地」をいう。この下山のナカイは「井水に囲まれた土地」を意味するのであろう。井水が複数本流れている。

全国地図には、ナカイ地名は中・大字として77ヶ所にも採り挙げられており、うち39ヶ所に「中井」が宛てられている。

#### 【中形】

ナカガタ。

この小字は中平の JR 飯田線の北側にある。

ナカガタとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①ナカとは「中程のところ」をいい、ガタ＝カタ（方）で「場所」をいう。従って、ナカガタとは「中程の場所」をいう。何に対して中程なのか。それは中平の中程をいうのか、それとも中平の低位段丘面の中程のところをいうのか、はっきりしない。

②ガタは「石原。石地」をいう。つまり、ナカガタとは「中程にある石地になっている所」であろうか。中程とは①の通り。

全国地図には、ナカガタ地名は3ヶ所に中・大字として挙げられているが、「中形」の字は無い。

#### 【長坂】

ナガサカ。

この小字は、上山の低位段丘から中位段丘に上る傾斜地付近に二ヶ所、切石の上流部に小さなのが一ヶ所ある。

ナガサカとは、文字通り「長く続く坂」であるが、上山の大きなナガサカ小字はこの通りとなっている。小さなナガサカは単なる「傾斜地」で、ナガkとサカという同意反復に地名ではないかという（語源辞典）。

全国地図には、ナガサカ地名は、中・大字として50ヶ所に挙げられており、うち48ヶ所で「長坂」の字が宛てられている。

#### 【中島】

ナカジマ。

この小字は、松川沿いの低位段丘面の久米路橋付近にある。松川や複数の井水に囲まれている。

ナカジマとは「流水に囲まれた土地」を島に見立てて呼んだところであろうか。

ナカジマ地名は全国的にも多く、中・大字として262ヶ所にも挙げられている。

#### 【中田】

ナカタ。

一色の中位段丘面にある、二つの小さな小字である。この付近には小さな小字が数多く並んでいる。

ナカタとは、「たくさんの小字が集まっている、その中の小さな土地」を指すものと思われるが、はっきりしない。

全国地図には、ナカタ地名は35ヶ所に中・大字として挙げられており、うち「中田」の字が宛てられているのは30ヶ所になっている。

#### 【寺】

テラ。

この小字の中に、名古屋の運松寺がある。

テラとは「運松寺のある所」をいう。

全国地図には、テラ地名は13ヶ所にあり、うち12ヶ所に「寺」の字が宛てられているが意外と少ない。

#### 【中通り】

ナカドオリ。

この小字は運松寺の北隣にあり、名古屋八幡神社の北側を通る重要な道路であったと思われる。舌状台地の頂上部とその北東側の傾斜地・道路を含む小字にな

っている。

ナカドオリとは「中心的な役割を果たしている道路のあるところ」であろうか。

全国地図には、ナカドオリ地名は67ヶ所に中・大字として挙げられており、うち65ヶ所に「中通り」「中通」の字が宛てられている。

#### 【中西】

ナカニシ。

この小字は、切石の低位段丘面の西部の二ヶ所に並んでいる。

ナカニシとは何を意味するのか。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①ナカニシには「集落の中ほどの西寄りの部分」の意もあるという。したがって、切石のナカニシは「切石の南北方向では中ほどにあって西寄りの場所」を意味することも考えられる。

②ナカは二本の道路または井水に挟まれた場所をいい、ニシは動詞ニジム（滲）の語幹が清音化した語で「湿地」をいう。以上から、ナカニシとは、「二本の井水の挟まれた湿地」をいうか。現在は二本のうち一本がはっきりしていないが。

全国地図には、ナカニシ地名は46ヶ所にあり、うち46ヶ所が「中西」の文字を宛てられている。

#### 【中沼】

ナカヌマ。

下山にある小字。

ナカヌマとは「低位段丘面の中ほどにある湿地」をいのであろう。

全国地図には、ナカヌマ地名は8ヶ所に中・大字として挙げられており、その全てに「中沼」の字が与えられている。

#### 【中原】

ナカハラ。

この小字は、名古熊の中位段丘面の中ほどにあり、広い面積をもっている。

ナカハラとは、「台地の中ほどにあって、

広い平坦地になっているところ」をいうのであろう。

全国地図には、ナカハラ地名は125ヶ所に中・大字として挙げられており、うち118ヶ所で「中原」の字が宛てられている。

#### 【中屋前】

ナカヤマエ。

上山の低位段丘面のテラシタ小字の北東隣にある。

ナカヤマエとは「地域の中核的な有力者の屋敷の前のところ」をいう。

全国地図には、ナカヤマエ地名は無いが、ナカヤマ地名は64ヶ所にある。

#### 【名古熊】

ナゴクマ。

名古熊の中位段丘面にあり、ミヤ・テラ小字群に囲まれている、小さな小字である。

ナゴクマとは何か。二説を挙げる。

①ナゴは動詞ナゴム（和）の語幹で「なだらかで平らな所」をいい、クマはクマ（隅）で「奥まった所」をいう。以上から、ナゴクマとは「段丘上の奥まった平らな地」を意味する（以上は『鼎の地名』）。②ナゴは「平坦地」のことで、クマは下伊那の方言で動詞クマス（くずす）の語幹で「崩れ地」をいう（語源辞典）。すなわち、ナゴクマとは、「近くに崩れ地のある平坦な土地」をいうのかもしれない。

とにかく小さい小字である。中字にまで出世した地名であるから、小字名発生当時はもう少し広がったと思われる。

全国地図には、ナゴクマ地名は記載が無い。

#### 【七呼り】

ナナヨバリ。

この小字は名古熊八幡神社の北隣にあり、段丘端から下の段丘にかけて二ヶ所にある。かつては繋がっていたものであ

ろう。

「七呼」について『鼎の地名』は次のように記している。「松尾城が落城した時、お姫様が城からのがれて来て助けを七声呼んだのでこの地名が付いた」と。三穂のナナヨバワリにも落城にかかわる、同様な口碑がある。

ナナは仏神事にかかわる数字であろうか。竜丘にはウスイナナマワリ小字がある。

ヨバワリは動詞ヨバワル（呼）の連用形だ名詞化した語、ヨバワルとは「大声で言う、また叫ぶ」こと（広辞苑）。また、「神隠しにあった子を取り戻すために登って名を呼ぶ丘。また、急死者のために魂呼びをした丘」を呼ばわり山といっている（国語大辞典）。

ナナヨバワリとは何か。「高みに登って、神隠しにあった子どもを取り戻したり、死者を蘇らせるための魂呼びで、七回、名前を大きな声で呼んだ場所」をいうのであろうか。助けを求める叫びは敵方に察知されてしまいそうだ。

全国地図には、ナナヨバワリ地名は記載が無い。

#### 【二軒茶屋】

ニケンジャヤ。

低位段丘から上の段丘にのぼる傾斜地にあり、コメカミ小字の西隣になる。

ニケンジャヤとは何か。二説を挙げる。

①『鼎の地名』には「秋葉街道沿いに茶店などのあった所」とある。とすれば、ニケンジャヤとは、「二軒の茶屋があったところ」を意味する。

②ニゲ←ヌケ（抜）の転訛した語。チャヤ←チャが転じた語でチャブス（潰）を意味する（以上は語源辞典）。従って、ニケンジャヤとは、同意反復の地名で「崩れ地」をいうことになる。

全国地図には、ニケンジャヤ地名は3

ヶ所に中・大字として挙げられており、いずれも「二軒茶屋」の字が宛てられている。

#### 【西（ノ）原】

ニシ（ノ）ハラ。

飯田バイパスの名古熊交番の周辺に、ニシノハラ・ニシハラ小字が、それぞれ三ヶ所ずつある。

ニシ（ノ）ハラとは、「名古熊八幡神社の西側にある平坦地」を意味するのであろう。

全国地図には、ニシノハラ地名は22ヶ所、ニシハラ地名は105ヶ所に、それぞれ中・大字として挙げられている。

#### 【西垣外】

ニシガイト。

この小字は、上山の段丘崖とその麓の段丘とに、二ヶ所ある。

ニシガイトとは、「西の方にある有力者の屋敷跡」をいうか。方角の基準になっているのは、東側にあるドウガイト小字であらう。

全国地図には、ニシガイト地名は6ヶ所に中・大字として挙げられている。

#### 【二本木】

ニホンギ。

この小字は名古熊の運松寺東方にあって、ヤクシドウ小字に挟まれている。

ニホンギとは、「二股に分かれた木で神木とされていた樹木のあったところ」であらうか。信仰の対象となるのは、榎・杉・松などが多かったという（語源辞典）。

全国地図にも、ニホンギ地名は40ヶ所に中・大字として挙げられており、うち37ヶ所で「二本木」の文字が宛てられている。

#### 【沼】

ヌマ。

この小字は国道153号線の飯田バイパス上にあり健和会病院の敷地にもかか

っている。

ヌマは字面の通りで「湿地」を意味する。南の段丘上にあるアラジョウ(新城)の守りに一役かっていたかもしれない。

全国地図には、ヌマ地名は22ヶ所に中・大字として挙げられており、その全てに「沼」の字が宛てられている。

#### 【衾ぎが久保】

ネギガクボ。

この小字は名古屋八幡神社の近くであり、飯田バイパスの両側に2ヶ所ある。段丘崖とその麓になる。

ネギガクボとは「神職である衾宜の屋敷があった窪地」をいうのであろう。八幡神社の衾宜と考えるのが順当と思われる。

全国地図には、ネギガクボ地名は一つもない。

#### 【野畔】

ノクロ。

この小字は切石と上山の低位段丘面に大小あわせて3ヶ所にある。

ノクロとは何か。意外と難しい地名である。語源辞典に依りながら二説を挙げたい。

①ノ(野)は「人家に対する田畑」をいい、クロは「石積みなどをして小高くなった所」を意味することがある。以上から、ノクロとは「耕作の邪魔になる石などを積み上げた所もある耕作地」をいうのであろうか。現在は宅地になっているところが多いが、小字発生時には開墾が進んでいたのであろう。

②ノは「山地にたいする野原」を意味し、クロはクリ(涅)に通じ「湿地」をいう。すなわち、ノクロとは「湿気っぽい緩傾斜地」を意味するのかもしれない。段丘崖麓の自然湧水や主に下流で必要とされた井水が何本も通っている。

全国地図には、ノグロ(野黒)地名は

1ヶ所に挙げられているが、ノクロ地名は記載がない。

#### 【ハタコ】

この小字は、東鼎の松川沿いに3ヶ所分布している。

ハタコとは何を意味しているのであろうか。分かりにくい小字である。語源辞典によりながら二説を挙げておきたい。

①ハタコはハ(端)・タコ(高)が転じた語で、「(川の)ほとりの微高地」をいうのであろうか。堤防がまだ無い頃、洪水によって運ばれた土砂が微高地を形成していたのであろうか。

②ハタはハタ(端)で、コはコウ(川)の約で、ハタコとは「川のほとり」をいうか。

この他にも、ハタをハタ(秦)として渡来系の豪族との関わりもあり得ないわけではないが、ここでは挙げないでおく。

全国地図には、ハタコ地名は記載が無い。

#### 【畑田】

ハタダ。

一色西部に2ヶ所あり、周辺を井水が流れているが、現在は畑や果樹園になっている。いずれも運動公園通りの傍か、通りを跨いでいる。

ハタダとは何をいうのか。三説を挙げる。

①ハタ(端)は「そば。かたわら」をいう。ハタダとは「主要道路の傍らにある土地」か。小字発生時にこの道路が主要な街道であったのかどうか。

②ハタを「段丘の先端部」とすることもできる。すなわち、ハタダとは「段丘の先端部となっているところ」となる。小さな方のハタダ小字は段丘先端部から少し離れているが、かつては繋がっていたとすれば、問題は解消する。

③ハタダとは「畑になっている所」も意

味するが、一般的にすぎて小字名になるものかどうか。

全国地図には、ハタダ地名は12ヶ所に中・大字として記載があり、うち11ヶ所には「畑田」の字が宛てられている。

#### 【八王神】

ハチオウジ。

名古屋の東部にある八王神社のある所と周辺の二ヶ所に、この小字はある。

ハチオウジとは「八王子を祀る社のある所」をいうのであろう。

八王子は「ある神の八柱の御子神あるいは眷属神を祀る社」(民俗大辞典)のこと。“ある神”とは、近江の日吉山王・祇園牛頭天王・稲荷神などが挙げられている。

この名古屋の八王神社に祀られている八王子が、どの神に関連しているのかは不明である。

全国地図には、ハチオウジ地名は、中・大字として13ヶ所が挙げられている。宛てられている字には「八王神」は無い。

#### 【八垣外】

ハチガイト。

この小字は名古屋八幡神社の北隣とそれから東方の飯田バイパスの北側に二ヶ所にある。

ハチガイトとは何か。語源辞典に依りながら、二説を挙げる。

①ハチ←ヤチ(菴)と転じたもので、「湿地」をいう。二ヶ所とも段丘崖の麓部分にあるので、自然の湧水があったと思われる。以上から、ハチガイトとは、「湿地にあった屋敷跡」だろうか。

②ハチは動詞ハツル(削)の語幹ハツの転訛した語で、「削られたような地形」をいう。従って、ハチガイトとは「崩壊地のある屋敷跡」になる。しかし、東方にあるハチガイト小字が、この解釈に当てはまるのかどうか、疑問もある。

全国地図には、ハチガイト地名は2ヶ所に中・大字として挙げられている。しかし「八垣外」の字は無い。

#### 【八反田】

ハッタング。

この小字は、上山公民館の西方にある、大きな小字である。

ハタングとは「八反歩あった所」であろうか。実面積は8反歩には及ばないが、小字名発生当時にはそれくらいはあった可能性はある。

全国地図には、ハッタング地名は、中・大字として24ヶ所が挙げられており、その全てに「八反田」の字が宛てられている。

#### 【羽場】

ハバ。

この小字は、上山と名古屋に一ヶ所ずつある。

ハバはハバ(岨)で、「傾斜地」のことをいう(国語大辞典)。群馬・山梨・長野・岐阜の方言になっている。

従って、ハバとは「傾斜地のある土地」ということになる。

全国地図には、ハバ地名は40ヶ所に中・大字として挙げられている。うち19ヶ所に「羽場」が、10ヶ所に「幅」の字が宛てられている。

#### 【羽場平】

ハバヒラ。

この小字は、名古屋の段丘から毛賀沢川へ降りる急傾斜地にある。

この場合、ハバは「崖」の意であろう。ハバヒラとは「崖の急傾斜地になっているところ」をいうのであろう。

全国地図にはハバヒラ地名は記載が無い。

#### 【林クロ】

ハヤシクロ。

この小字は、伊賀良の上殿岡境に近く



国道153号線飯田バイパスの北側に沿っている。

ハヤシクロとは、はっきりはしないが、「樹木の繁っている場所の傍」か。北側にはタカミ小字群のある所で、何らかの理由で樹木が繁っていた場所があったmのと思われる。

全国地図には、ハヤシクロ地名は記載が無い。

#### 【原】

ハラ。

名古屋の八幡神社付近から東部一帯に五ヶ所に大小のハラ小字が分布する。

これらの小字に共通する解釈は、ハラ（開）で「開墾地」であろうか。いいかえると、ハラとは「開墾地であった所」であろう。

全国地図には、ハラ地名は450ヶ所が中・大字として挙げられている。

#### 【原田】

ハラダ。

この小字も名古屋の八幡神社より東部に四ヶ所に分布している。

ハラダとは何を意味するのか。二説を挙げる。

①ハラダとは、「広い平坦地」あるいは「広い平坦地にある田んぼ」を意味するのであろう。

②ハラダとは「開墾地で田んぼになっているところ」かもしれない。分布地がハラ小字の近くにあるので、この解釈もあり得る。

全国地図には、ハラダ地名も多く、74ヶ所が中・大字として記載されている。

#### 【原見坂】

ハラミザカ。

名古屋東端部の松尾境にある小字で、二ヶ所にある。

ハラミザカとは何を意味しているのか。よく分からない地名である。二説を挙げ

る。

①ハラは東側に低くなっている平坦地であろう。ハラミザカとは「低くなっている平坦地を見張る坂」ではないだろうか。物見坂である。南にある松尾城よりも高くなっており、殿垣外小字にも接しているので、物見には適していたのかもしれない。

②ハラミとは「ふくらんだ所」の意であるという（語源辞典）。二ヶ所のハラミ小字に接する凹地は、上から見ると確かに膨らんでおり、この地形を妊婦に見立てたのかもしれない。

全国地図にはハラミザカ地名は記載されていない。

#### 【原宮】

ハラミヤ。

名古屋最東端のハラミザカ小字周辺に、これも二ヶ所ある。これもよく分からない小字名である。

ハラミヤという神社はどこにも見当たらない。瑞祥地名として「原宮」としたのではないだろうか。

ハラミヤとは何か。ハラミザカ小字と同様な解釈しか考えられない。そこで三説を挙げる。

①ハラミヤはハラミ（原見）・ヤ（菴）で、「物見をした湿地のある所」か。水田もあり、自然湧水のあったところと思われる。

②ヤはヤ（家）で、「集落」をいう（語源辞典）。すなわち、ハラミヤとは「物見をした場所のある集落」であろうか。

③ハラミを妊婦に見立てて、「妊婦の形をした地形になっている湿地（または集落）」を意味するか。

ハラミヤ地名も全国地図には無い。

#### 【半場】

ハンバ。

名古屋八幡神社を置く小字からはじま

って、ハンバ小字は大きい小字と小さな小字が二ヶ所ずつある。周辺にはタイザをはじめミヤ関係の小字が多い。

ハンバとは何か。二説を挙げる。

①ハンバとは「開墾し残した大きな丘」（語源辞典）であろうか。大きな二つのハンバ小字については、この解釈が成立しそうである。神社に関係する神聖は土地であったために開墾しなかったことが考えられる。

②ハンバとはハバの変化した語で「川べりの緩傾斜地」をいう（国語大辞典）。大きなハンバ小字については、いずれも井水が流れているので、当てはまる。小さい小字については、かつては大きな小字に繋がっていたのであろう。

全国地図には、ハンバ地名は10ヶ所に中・大字として記載がある。

#### 【樋池】

ヒイケ。

この小字は、願王寺から下る段丘崖から萱垣井水に沿って三ヶ所に分布している。

ヒイケとは何を意味するのか。ヒ（樋）は井水を通す水路をいい、イケはキセキ（井堰）の略で（語源辞典）、水の流れをせき止める所である。

以上から、ヒイケとは「井水の流れを止めて、水量を調整したり、分水をする場所」をういのであるだろうか。

全国地図には、ヒイケ地名は1ヶ所のみ中・大字として挙げられているが、宛てられている文字は「日池」。

#### 【ヒエタ・冷田】

ヒエタ（ダ）。

切石のヒエタ小字は段丘崖の麓に三ヶ所、上山のは段丘面に小さい小字が四ヶ所、段丘崖麓に一ヶ所ある。

段丘崖の麓には自然の湧水があると思われるが、段丘面にも東が低くなってい

る緩傾斜地で泉があるのであろうか。

ヒエタ（ダ）とは何か。二説を挙げる。

①ヒエタはヒエタ（稗田）で、「稗を栽培する耕作地」を意味する（国語大辞典）。栽培されていたのは田稗で、水温が低くても育つといわれている。田稗は水温が低く稲の生育のよくない水口などに栽培されていたらしい（民俗大辞典）。

全国地図には、ヒエタ地名は34ヶ所が中・大字として挙げられており、うち「稗田」の字が26ヶ所に宛てられている。

#### 【日影・日カゲ】

ヒカゲ。

一色には、ヒカゲ小字と「日影」小字が二ヶ所にあるが、二ヶ所とも小さい。名古屋の「日影」小字は四ヶ所にあってもいずれも小さくはない。

これらの小字は、いずれも日蔭地にはないので、ヒカゲとは「日当たりのいい場所」をいうのであろう。

全国地図には、ヒカゲ地名は78ヶ所に中・大字として挙げられており、「日蔭（陰）」の字が15ヶ所、「日影」の字が57ヶ所に宛てられている。

#### 【東垣外】

ヒガシガイト。

東鼎の低位段丘面にあり、JR 飯田線を挟んでいる。

ヒガシガイトとは、「東の方にある屋敷跡のある所」か。方向の基準になっているのは、矢高諏訪神社と思われる。

全国地図には、ヒガシガイト地名は記録されていない。

#### 【ビク田】

ビクタ。

名古屋の南西端にあり、ケガサワ小字に囲まれていて、現在は果樹園と畑になっている。

ビクタとは何か。国語大辞典に依りな

から二説を挙げる。

①ビクはビク（比丘）で「僧侶」をいう。タはタ（処）か。従って、ビクタとは「僧侶が住んでいたところ」であろうか。

②ビクは「誤って比丘尼をいう場合もある」という。ビクタは「比丘尼がすんでいたことがある場所」であろうか。直接的な関わりは無いと思えるが、ビクタは女をののしる言葉で愛知県北設楽郡の方言でもあるという。

#### 【樋口】

ヒグチ。

下山と名古屋に、一ヶ所ずつある。

ヒグチとは、「用水路の取入口」をいう。

全国地図には、ヒグチ小字は28ヶ所中・大字として記載されており、うち「樋口」の文字が宛てられているのは、25ヶ所。

#### 【ヒクニンタ】

ビクニンタか。

この小字は一色西部のタカミ小字群の中にある。

ビクニンタとは何をいうのであろうか。国語大辞典に依りながら二説を挙げる。ビクニンはビクニ（比丘尼）の変化した語であるという。

①ビクニンは「尼」のこと。ビクニンタとは「尼寺のあった所」か、あるいは「尼寺があったが水田に変わったところ」であろうか。また尼の姿をして諸国を巡り歩いた歌比丘尼・熊野比丘尼・絵解比丘尼の宿泊する場所であったかもしれない。

②ビクニンタとは「尼寺の寺田」か。収穫物を尼寺の維持や仏事の経費に充てた田んぼで免租されていたところであろうか。

全国地図には、ビクニンタ地名は記載が無い。

#### 【日向田】

ヒナタダ。

上山の低位段丘面とその上の名古屋の中位段丘面に一ヶ所ずつ、ある。現在、上山のヒナタダには水田はあるが、名古屋のには無い。

ヒナタダとは「日当たりにいい場所(田んぼ)」をいう。

全国地図には、なぜか、ヒナタダ地名は記載が無い。

#### 【ビヤ田】

ビヤダ。

この小字は名古屋の毛賀沢川右岸の傾斜地にある。

ビヤダとは何か。二説を挙げる。

①ビヤダ←ヒヤダ（冷田）と転訛したもので、「水温の低い田んぼ」であったかもしれない。現在は果樹園になったいるが、かつて自然湧水による田んぼがあったことも考えられる。

②ビヤダ←ヒヤ（火屋）・タ（処）で、ビヤダとは「火葬場があったところ」かもしれない。この例は静岡県志太郡にあったという（国語大辞典）。

全国地図には、ビヤダ地名は無い。

#### 【兵部】

ヒョウブ。

下山にある鼎文化センターの南側にある。

ヒョウブとは何を意味するのか、わかりにくい。二説を挙げる。

①ヒョウブは律令の兵部省との関連しか思い出せないが、「兵器庫のあった場所」であろうか。南の段丘上にはアラジョウ（新城）小字がある。

②ヒョウブ←ヘイブ（平部）が転じた語か。ヒョウブとは「平坦な場所」とも取れる。しかし、このままで地名になるのか、という疑問もある。

全国地図にも、ヒョウブ地名は載っていない。

#### 【平林】

ヒラバヤシ。

切石の松川に添った、広い緩傾斜地となっている。

ヒラバヤシとは「川原林のある、広い緩傾斜地」をいうのであろう。

全国地図には、ヒラバヤシ地名は41ヶ所に、中・大字として挙げられており、うち39ヶ所では「平林」の字が宛てられている。

#### 【廣畑】

ヒロハタ。

この小字は、一色の反西部にあり、上殿岡境も近い。

ヒロハタとは、何を意味しているのか。二説を挙げる。

①ヒロハタとは、字面の通りに「広い畑になっている所」をいうのであろうか。単純にすぎるか。

②ヒロ←ヒラと転じた語で、「緩傾斜地」をいう（語源辞典）。すなわち、ヒロハタとは、「緩傾斜地にある畑」となるが、どうか。

全国地図には、ヒロハタ地名は22ヶ所に中・大字として挙げられており、うち21ヶ所で「広畑」の文字が宛てられている。

#### 【深沼・深沼田】

フカヌマ・フカヌマダ。

これらの小字は上山の西端にあり、伊賀良の西原地区と接している。低位段丘面にあり、その上の中位段丘面にのぼる傾斜地とその麓に分布している。フカヌマ小字が一ヶ所、フカヌマダ小字が二ヶ所ある。段丘崖の麓は自然の湧水の多いところであろう。

フカヌマとは何か。フカヌマとは「芦が沈むような湿地」を意味するのであろう。フカには、「深い」という意味とフケ（沮）の転で「湿地」の意もある。どちらでも成立しそうな解釈である。

フカヌマダとは「フカヌマになっている場所（水田）」をいう。小字発生時には田んぼになっていたものと思われる。

全国地図には、フカヌマ地名は6ヶ所に中・大字として挙げられており、その全てに「深沼」の字が宛てられている。

#### 【藤蔵田】

フジクラダ。

この小字は一色の中位段丘面に二ヶ所ある。

フジクラダとは何をいうのであろうか。語源辞典に依りながら二説を挙げたい。

①フジ←フチ（縁）と転じた語で、「川べり」の意か。ここでは井水であろうか。クラはクラ（倉）で「倉庫」のこと。ダはダ（処）をいう。以上から、フジクラダとは「井水べりにあり、倉庫のあるところ」を意味するのであろうか。

②フジはマメ科の植物のこと。フジクラダとは「藤の木が生えており、倉庫のある所」をいうのかもしれない。

全国地図には、フジクラダ地名は一つも無いが、フジクラ地名は16ヶ所に挙げられている。

#### 【舞台・舞臺】

ブタイ。

名古屋に二ヶ所ある。一つは名古屋西端部の段丘崖に、もう一つは名古屋東部の丘にある。

ブタイとは何か。二説を挙げる。

①舞台は「演劇や舞踊などの芸能を行うために設けられた場」であるという（国語大辞典）。西部のブタイ小字は公会堂が近くにあるので、この解釈が成立する可能性はあるが、東部のブタイ小字には当てはまりにくいと思われる。

②ブタイとは見立て地名で「小台地状の地形になっている所」をいう（語源辞典）。これは特に東部のブタイ小字にはぴったりしている。

全国地図には、ブタイ地名は12ヶ所に中・大字として挙げられており、うち8ヶ所には「舞台」の字が宛てられている。

#### 【坊主田】

ボウズダ。

名古熊の運松寺西方の平坦地に、二ヶ所ある。

坊主とは「僧侶」のことで、蔑称ではない。ボウズダとは「寺領地」を意味する(語源辞典)。収穫物を建物や仏事の維持に当てる田んぼで免租されていたと思われる。運松寺の寺田か。

全国地図には、ボウズダ地名は無いが、ボウズダ地名は一ヶ所にあり、「坊主田」の寺が宛てられている。

#### 【母子ヶ谷】

ボ(ホ)コガタニ。

一色の願王寺北西隣と名古熊の最西部の二ヶ所にある。

ホコ=ボコと考えるが、ホコガタニとは何をいうのであろうか。ボコは「凹んでいる所」をいう(語源辞典)。従って、ホコガタニもボコガタニも「窪地」をいうのであろう。『県の地名』も同じ解釈になっている。

全国地図にはボコガタニ地名もホコバタニ地名も記載が無いが、

#### 【保子下】

ホコシタ。

名古熊の西部にある小字。

ホコシタトハホコ=ボコ・シタ(下)で、「窪地の下流側の土地」をいうのであろう。

全国地図には、ホコシタ地名もボコシタ地名も記載されていない。

#### 【ホタ下・ボタ下】

ホタシタ・ボタシタ。

ホタシタ小字は、一色の西部にある小さな小字で、二ヶ所にあるり、ボタシタ地名は同じ一色でそれより東方にある。

ホタ=ボタでmホタは「土手」のこと(語源辞典)。従って、ホタシタもボタシタも「土手の下の土地」をいうか。

全国地図には、ホタシタ地名もボタシタ地名も記録されていない。

#### 【佛垣外】

ホトケガイト。

この小字は一色の不動堂の西側に接しており、願王寺にも近い。

ホトケは「僧侶」をいう(国語大辞典)。従って、ホトケガイトとは「僧侶が住んでいた僧坊のあった所」をいうのであろうか。

ホトケを動詞ホドク(解)の連用形が名詞化した語で「崩壊地形」を意味するという解釈もある(語源辞典)が、段丘崖が近いとはいえ、無理筋とみて取りあげないことにする。

全国地図には、ホトケガイト地名は記載されていない。

#### 【堀ノ内・堀之内】

ホリノウチ。

上山で二つの小字は接していて、いずれもJR飯田線を跨いでいる。

ホリノウチとは、「中世、在地領主の屋敷地内」であるという(国語大辞典)。しかし、よくわからない。小笠原氏が室町末期に配したという一色弾正の屋敷でもあったのであろうか(県の地名)。

全国地図には、ホリノウチ地名は中・大字として記載があるのは、154ヶ所と多い。

#### 【前田】

マエダ。

この小字は、一色と名古熊に一ヶ所ずつある。

一色のマエダについて、すぐ南にヤナギガイト小字があり、その屋敷の前の田であるので「ヤナギガイト居住者の所有田」を意味するのであろう。

名古屋のマエダ小字は、名古屋八幡神社と運松寺の南～南西方向にあり、マエダとは「八幡神社の前の方にある田んぼ」をいうのであろう。

全国地図には、マエダ地名は139ヶ所が中・大字として挙げられており、「前田」の字が宛てられているのは137ヶ所になる。

#### 【前ノ原】

マエノハラ。

この小字は、一色の二ヶ所にある。一つは南西端に、もう一つは一色の段丘の北端にある。

南西端のマエノハラとは「一色諏訪神社の前の方にある緩傾斜地」をいうのであろう。神社からは少し離れているが、すぐ北にはタイザ小字もあるので、やはり諏訪神社との関連を考えるべきであらう。

段丘北端のマエノハラ小字は諏訪神社の東方にあるので、正確には“前の方”とはいいにくいですが、後ではないのでこうした表現もあり得るのではないかと思うがどうであらうか。マエノハラ小字の東隣には、ここにもタイザ小字がある。

全国地図には、マエノハラ地名は、なぜか1ヶ所しか、中・大字として記載されていない。

#### 【前畑】

マエバタ。

一色の中位段丘面の中ほどにある、小さな小字である。

マエバタも「諏訪神社の前の方にある畑」であらうか。

全国地図には、マエバタ地名は2ヶ所に中・大字として挙げられているだけである。やはり畑と田んぼの評価の違いであらうか。

#### 【牧ノ内】

マキノウチ。

この小字は、JR 飯田線下山村駅の飯田よりの所で、飯田線を挟んでいる。

マキノウチとは何をいうのであろうか。語源辞典に依りながら二説を挙げたい。

①マキノウチとは「牧場の中の土地」をいう。中近世にも、マキは牧場に意味に使われてきたという。しかし、この耕地に適した所に牧場があったのかどうか、疑問もある。

②マキは動詞マク（巻）の連用形が名詞化した語で、「流水に取り巻かれている所」をいう。マキノウチとは「井水に囲まれた土地」とも考えられる。

全国地図には、マキノウチ地名は18ヶ所に中・大字として挙げられている。

#### 【藩口・ませぐち】

マセグチ。

これらの小字は名古屋の中位段丘面とそこから毛賀沢川に下る傾斜地にある。

マセグチとは何か。二説を挙げる。

①マセ（馬柵）は「放牧場などで馬が外に出ないように横木を渡して作った垣」（国語大辞典）という。従って、マセグチとは「牧場の出入り口」であらうか。沢に近いので、牛馬に水を飲ませるための出入口であったか。

②マセ（真瀬）で「瀬になった所」（語源辞典）の意もある。つまり、マセグチとは「川の瀬へ入る所」とも考えられる。瀬になっていて徒渉しやすい、あるいは簡単な橋を渡しやすい場所であったと思われる。

全国地図には、マセグチ地名は6ヶ所に中・大字として挙げられており、うち4ヶ所に「馬瀬口」の字が宛てられている。

#### 【町割】

マチワリ。

一色の南西端に近いところにある。

マチ（町）とは「区画した田地」をいう（語源辞典）。

従って、マチワリとは「区画された田んぼが割り振られていり所」をいうのであろう。

恐らくは、所有者のはっきりしない土地で、井水が通りはじめて新田が作られ、割り振られたところだったのではないだろうか。

全国地図には、マチワリ地名は記載されていない。

#### 【松ノ木】

マツノキ。

名古屋の八幡神社の北方にある。

マツノキとは何か。二説を挙げる。

①マツノキとは素直に解釈すれば「目立つ松の大木があった所」であろう。

②別の解釈も、やや無理気味ではあるが示しておきたい。マツ←マチ（町）と転じた語で（語源辞典）、ノキは「家の裏手」のことで下伊那地方の方言である。以上から、マツノキとは「家の裏手にある区画されて、その家の所有地となっている水田」をいうのかもしれない。家というのは隣のハチガイト小字にある屋敷をいうのであろう。

全国地図には、マツノキ地名はあ57ヶ所が中・大字として挙げられている。

#### 【松葉】

マツバ。

鼎文化センターと鼎体育館の西の通りの東西両側に、この小字は五ヶ所に分布している。

マツバとは何か。これもよく分からない。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①マツ←マチ（町）と転じたもので、「区画された田んぼ」をいい、バはバ（場）で「場所」をいう。以上から、マツバとは「区画分配された水田のある所」をいうのであろうか。

②マツ←マツチ（真土）と転訛したか。真土とは「耕作に適する良質の土」（広辞

苑）をいう。従って、マツバとは「耕作に適する良質な土地」か。

全国地図には、マツバ地名は40ヶ所に中・大字として挙げられており、うち「松葉」の字が宛てられているのは33ヶ所。

#### 【松森】

マツモリ。

この小字は東鼎の松川べりにある。

マツモリとは何か。『鼎の地名』には「堤防際に松を植え水神を祀った所」とあるが、その通りであると思われる。マツ（松）は聖樹であり、モリ（森）は神々がおおす神聖な場所である。

全国地図には、マツモリ地名は14ヶ所が中・大字として挙げられており、うち12ヶ所は「松森」の字が宛てられている。

#### 【豆井田】

マメイダ。

この小字は、切石の低位段丘面の三ヶ所にある。うち一ヶ所は松川べりに長く伸びた形になっている。

マメイダとは何をいうのであろうか。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①マメはママ・マミと同じように「斜面」をいい、イダ←キダで「自然堤防」のこと。マメイダとは、「傾斜地で自然堤防のあるところ」をいうのであろうか。

②イダは井（井）・ダ（処）で「流水のあるところ」を指す。すなわち、マメイダとは「自然堤防があり、川や井水の流れているところ」も考えられる。

全国地図には、マメイダ地名は1ヶ所だけであるが記載されている。

#### 【豆田】

マメタ。

切石の低位段丘面にあり、JR 飯田線の南西側に沿っている。

マメは「斜面」をいい、タは「田」よ

りも「処」であろうか。従って、マメタとは「緩やかな傾斜地になっている所」になる。

全国地図には、マメタ地名は中・大字として、1ヶ所にだけ記載がある。

#### 【水口】

ミズグチ。

一色の西端部にある小さな小字である。現在も井水が分岐している場所になっている。

ミズグチとは、「水を入れる口」で、田んぼへ引いたり、井水を分けたりする場所をいうのであろう。

全国地図には、ミズグチ地名は8ヶ所に中・大字として記載があり、その全てに「水口」の字が宛てられている。

#### 【水割】

ミズワリ。

この小字は、上茶屋と下山に1ヶ所ずつある。

ミズワリとは何か。一般辞書類・語源辞書類には無い。伊那谷南部には多いのはこの地特有の小字名かもしれない。

ミズワリとは、「井水を分ける場所」をいう。いつも半々に分けるだけでなく、7：3に分けたりする所もある。

全国地図には1ヶ所だけ、ミズワリ地名があり、「水割」の字を宛てている。

#### 【道側】

ミチソバ。

この小字は、一色の西部に、二ヶ所ある。

ミチソバとは、字面の通りで「街道のそばの土地」をいう。

全国地図には、ミチソバ地名は載っていない。

#### 【道下】

ミチシタ。

この小字も一色西部のタカミ小字群の間に、五ヶ所ある。

ミチシタとは、これも文字通りで「街道の下側の土地」をいうのであろう。

全国地図には、ミチシタ地名は21ヶ所にあり、その全てに「道下」の字が宛てられている。

#### 【三ツ井】

ミツイ。

一色の細かな小字が集まった場所に二ヶ所、名古屋の段丘にも三ヶ所のミツイ小字がある。

ミツイとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①ミツ←ミヅ（水）の転じた語で、ミツイとは「水の流れる井水のある所」か。同意反復語であらう。

②ミツ←ミチ（道）の転訛した語とすれば、ミツイとは「道路の側を流れる井水のある所」になる。

全国地図には、ミツイ地名は12ヶ所に中・大字として挙げられている。うち「三ツ井」の文字が宛てられているのは6ヶ所。

#### 【南】

ミナミ。

この小字はアラジョウ小字の段丘崖の麓にある。

ミナミとは何か。二説を挙げたい。

①ミナミとは字面の通りで、「(上山の)段丘の南端」をいう。その南は段丘崖になっている。

②ミは美称の接頭語で、ナミはナメ(滑)の転で「緩傾斜地」をいう(語源辞典)。従って、ミナミとは「緩やかに傾斜している所」かもしれない。

全国地図には、ミナミ地名は、188ヶ所が中・大字として挙げられており、うち181ヶ所で「南」の字を宛てている。

#### 【峰・ミね】

ミネ。

名古屋の西部に二ヶ所、名古屋の東部



に三ヶ所ある。東部の三ヶ所はばらばらになっているが、かつては一つながりの小字であったと思われる。

ミネとは何か。意外と難しい地名である。

ミネとは「段丘の先端部」をいうのであろうか。段丘崖の下からみれば稜線のようにになっていることをいうのであろうか。

全国地図には、ミネ地名は112ヶ所に中・大字として記載されている。

#### 【宮頭】

ミヤガシラ。

この小字は名古屋の東部に二ヶ所、ミヤ小字群の中に混じっている。

ミヤガシラとは何か。ミヤは名古屋八幡神社と思われるが、他のお宮である可能性もある。ガシラ＝カシラで「微高地である舌状丘の先端部」をいうのではないだろうか。

以上から、ミヤガシラとは「お宮のある舌状丘の先端部」を意味するものと思われる。

全国地図には、ミヤガシラ地名は記載が無い。

#### 【宮久保】

ミヤクボ。

名古屋の段丘面に五ヶ所ある。ミヤ小字群の一つ。

ミヤクボとは「神社の近くの窪地」をいうのであろう。神社は名古屋の八幡神社と思われる。

#### 【宮下・宮ノ下】

ミヤシタ・ミヤノシタ。

ミヤノシタ小字は一色にあり、名古屋の八幡神社の下方をいうのであろう。

ミヤシタ小字については、切石のは隣村の育良神社をいい、下山のは四ヶ所にあり、いずれも矢高の諏訪神社であろうし、名古屋の二ヶ所は名古屋の八幡神社

の下方であることを示しているのであろう。

全国地図には、ミヤシタ地名は84ヶ所、ミヤノシタ地名は65ヶ所にも及ぶ。

#### 【宮ノ原】

ミヤノハラ。

この小字は一色の段丘上にある。

ミヤノハラとは「お宮の近くの広い平坦地」をいうのであろうか。お宮はやや離れているが、名古屋の八幡神社と思われる。

全国地図には、ミヤノハラ地名は12ヶ所に中・大字として挙げられている。

#### 【妙琴】

ミョウキン。

切石の最北端にある大きな小字である。

ミョウキンとは何を意味しているのか。難しい小字である。

『鼎の地名』には、「永寿王丸が行人へ逃れ籠もった時、供の女官に妙なる音で琴を弾ずる者があり、この原で演じたという」とある。付会であろうか。

では、改めてミョウキンとは何か。ミョウキン←ミョウキ←ミヲキと転訛したことが考えられる。現在、小字にはないが、ミョウキンバラ（妙琴原）という地名が生まれた時に、ミョウキ→ミョウキンと撥音便化したと思われるがどうであろうか。

ミヲキには語源辞典に依りながら二説を挙げたい。いずれも現地には合致していると思っている。

①ミヲはミヲ（瀦）で「河流」をいい、キはキ（牙）で「鋭く尖った場所」をいう。従って、ミヲキとは「河流が尖ったように曲流している所」をいう。ミョウキンも同じ意味になる。

②ミヲはミ（御）・ヲ（峰）で「尾根の延びた所」をいい、キはサキ（崎）の略で「先端部」をいう。以上から、ミヲキ（ミ

ヨウキン)とは「尾根がのびた先端部」を意味する。

全国地図には、ミョウキン地名は記載されていない。

#### 【六畝田】

ムセダ。ロクセダかもしれない。

この小字は切石の松川氾濫原にある。

ムセダあるいはロクセダとは、「六畝の面積のある田んぼ」をいうのであろう。

全国地図には、ムセダ地名もロクセダ地名もそれぞれ1ヶ所ずつ中・大字として挙げられており、宛てられている字は双方とも「六畝田」となっている。

#### 【村沢・村澤】

ムラサワ。

切石のムラサワ小字は三ヶ所にあり、東鼎のムラサワ小字は一ヶ所だけで大きな面積になっている。松川には直接接している小字はない。

ムラサワとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げておきたい。

①ムラはムラ(斑)と関連して「凹凸の多い土地」で、サワは「山あいの水のある所」をいう。以上から、ムラサワとは「凹凸が多い、水のある所」をいう。微高地などの凹凸があり、自然の湧水もあったと思われる。松川の水や井水の水が関与していたかどうかはわからない。

②ムラ←モリ(盛)と転じたもので、サワはサハ(騒)で川の音によるか。すなわち、ムラサワとは「土砂が盛り上がったところもあり、川音が聞こえる土地」となるか。

ムラとサワを入れ替えると四組の解釈ができるので、組み替えられた方の解釈が正しいこともありうる。

全国地図には、なぜかムラサワ地名は載っていない。

#### 【薬師堂・薬師堂】

ヤクシドウ。

名古屋の運松寺のすぐ東側に三ヶ所あり、同じ名古屋のセイカンジ(清閑寺)小字の東側にも一ヶ所ある。

薬師堂は薬師如来を本尊として安置している堂で、薬師如来は東方の浄瑠璃世界の教主とされていることから、寺院の東側にあることが多い。薬師堂には本尊の他に日光・月光の両脇侍や守護神として十二神将もまつられることが多い。

従って、ヤクシドウとは「薬師堂のあった所」であろう。運松寺には、伊那十二薬師第一番の札所がある。

現在下山公民館になっている宝暦庵は伊那十二薬師第二番の札所にもなっており、十二神将も祀られている。このお薬師と清閑寺の薬師堂とは何らかの関係があるのであろうか。

2.5万分の1の全国地図には、ヤクシドウ地名は49ヶ所に中・大字として挙げられている。

#### 【矢高】

ヤタカ。

この小字には、矢高諏訪神社が鎮座する。

ヤタカのヤ(弥)は美称、タカはタカ(高)で、ヤタカとは「高い場所」をいう(語源辞典)。中位段丘の先端部にあり、北側の低位段丘面からは「高い場所」に見えるために、名付けられたと思われる。

全国地図には、ヤタカ地名は3ヶ所に挙げられている。

#### 【矢高原】

ヤタカッパラ。

ヤタカ小字の東側に接している。矢高中央公園やこどもの広場がある。

ヤタカッパラは「高い所にある広い平坦地」をいうのであろう。

ヤタカッパラ地名は、さすがに全国地図には無い。

#### 【柳垣外】

ヤナギガイト。

一色の中位段丘面の北部に二ヶ所ある。

ガイト＝カイトで「有力者の屋敷(跡)」であろうが、ヤナギがはっきりしない。①ヤナギは固有名詞か、②植物のヤナギの大木でもあったのか、あるいは③ヤナ(傾斜地)・ギ(場所)で「傾斜地」のことをいうのか。

全国地図には、ヤナギガイト地名が1ヶ所に中・大字として挙げられている。宛てられている字は「柳谷戸」ではあるが。

#### 【柳添】

ヤナギゾエ。

上山と下茶屋に一ヶ所ずつある。

ヤナギゾエとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①ヤナギゾエとは、字面の通りで「何本かある柳に沿っている土地」であろうか。いずれも井水が流れており、上流から運ばれた種子が芽を出していたのかもしれない。

②ヤナは「斜面」をいい、ギは「場所」を示す接尾語。従って、ヤナギゾエとは「緩い斜面にそって広がっている土地」かもしれない。

全国地図には、ヤナギゾエ地名もヤナギソイ地名も載っていない。

#### 【藪キハ】

ヤブキワ。

一色の最南西端にある。

ヤブキワとは「藪の傍の土地」をいう。ヤブは南側の傾斜地をいうのかもしれない。伊那谷南部にはヤブ関連小字が多い。ヤブは単なる藪ではなくて、手のつけにくい藪、つまり藪神といわれる荒神などの由緒の分からなくなって強い祟りをもたらす神がいると考えられていたのではないだろうか。

全国地図には、ヤブキワ地名は、記載されていない。

#### 【藪越】

ヤブコシ。

一色の最南端にあり、伊賀良の上北境に接している。

ヤブコシとは「藪の付近」をいう。このヤブも藪神に関わるヤブで人の手を入れにくい場所であったに違いない。

全国地図には、ヤブコシ地名も記載されていない。伊那谷特有の地名かもしれない。

#### 【藪下】

ヤブシタ。

この小字は、一色諏訪神社の北東側にあり、低位段丘面からその上の中位段丘面に上る段丘崖まで含んでいる。

この段丘崖をヤブと呼んでいたのであろう。ヤブシタとは「藪の下の方の土地」をいう。このヤブも今までのヤブと同様、由緒の分からなくなった藪神が鎮座していたのであろう。

全国地図には、ヤブシタ地名も記載はされていない。

#### 【藪ノ内】

ヤブノウチ。

この小字は、下山の低位段丘面にある。ヤブノウチとは「藪のある場所」をいうのであろうか。藪神の関わる境内と考えられていたのであろうか。

全国地図には、ヤブノウチ地名だけは2ヶ所に中・大字として挙げられている。

#### 【山岸】

ヤマギシ。

この小字は、切石と下山(西鼎)にそれぞれ二ヶ所ずつある。

ヤマギシとは何か。これが意外と分かりにくい。

ヤマギシは「段丘崖が岸のように連なっている所」(鼎の地名)であろう。高低の差はあるが、段丘の間の斜面を麓から見たときに当てはまると思われるが、こ

これらの小字はすべて段丘崖の麓にある。

全国地図には、ヤマギシ地名が37ヶ所に中・大字として挙げられている。

#### 【山古瀬】

ヤマコセ。

この小字は、上山の不動堂のある段丘から下った麓にある。

ヤマコセは、コセと同じで「一方が山側になっている道」のことをいうのであろう。同じ段丘崖麓の東の方にはコセ(古瀬)小字がある。

全国地図には、ヤマコセ地名は載っていない。

#### 【山ノ田】

ヤマノタ。

名古熊の南西部にある小字で毛賀沢川溪谷の傾斜地にある。それでも現在、一部は水田になっている。

ヤマノタとは何か。二説を挙げたい。

①ヤマノタとは、字面の通りで「山中に田んぼのある所」かもしれない。

②ノタはヌ(沼)・タ(処)で、ヤマノタとは「山中に湿地のある所」であろうか。猪のヌタ場があることは十分に考えられる。

全国地図には、ヤマノタ地名は13ヶ所に、中・大字として挙げられている。

#### 【山ノ洞】

ヤマノホラ。

切石のミョウキン小字の下流側にある、広大な面積になっている小字である。妙琴配水池や飯田自動車学校がある。

ヤマノホラとは、「山地で小さい谷がいくつもある所」をいうのであろうか。松川右岸の大きな支流が三本あり、その間にも小さな支流がいくつもある。

全国地図には、ヤマノホラ地名は記載されていない。

#### 【横井】

ヨコイ。

この小字は、低位段丘面の松川と JR 飯田線の間にある。

横井は、松川と並行に流れる縦の井水に対して、それと直交するように流れる井水をいうのであろう。

従って、ヨコイとは「松川の流れと直交する方向に流れる井水のある所」を意味する。

全国地図には、ヨコイ地名は11ヶ所に中・大字として挙げられており、その全てに「横井」の字が宛てられている。

#### 【吉政】

ヨシマサ。

中平の松川べりにある。現在は主に松川緑地になっているところ。

ヨシマサとは何か。二説を挙げる。

①「中世、飯田郷を支配した坂西長國の父、坂西由政は愛宕の吉政に住んだ。その子、松寿丸が中平の吉政に住んだといわれる」(鼎の地名)とある。確かにヨシマサは固有名詞の響きがするし、愛宕も近い。しかし、この川っぶちに貴人の子どもが住んでいたのだろうかという疑問はある。

②ヨシはヨシ(葦)で「葦が生えている所」をいい、マサはマサゴ(真砂)の下略(語源辞典)。以上から、ヨシマサとは「葦が生えていた砂地の土地」を意味することも考えられる。

全国地図には、ヨシマサ地名は3ヶ所に中・大字として挙げられており、その全てに「吉政」の字が宛てられている。

#### 【割前】

ワリマエ。

この小字は、一色の国道153号線飯田バイパスを跨いでいる大きな面積のワリマエ小字と平等に分割されたらしい小さなワリマエ小字がある。小さい方の周辺には同じような小さな土地が並んでいる。

ワリマエとは「分割して割り当てられ

た土地」をいうか。それまでは入会地のような共同使用の土地であったが、井水が通るようになって耕作地にかわる。その時に個々人に配分されたのであろうか。

全国地図には、ワリマエ地名は2ヶ所に挙げられており、いずれも「割前」の字が宛てられている。

(文責 今村理則)